

4 華北関税および幣制問題

732 昭和11年1月21日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会の天津税関長に対する関税収入引渡し要求には応じないよう孔祥熙が総稅務司へ勧告したとの情報について

上海 1月21日夜着
本省 1月21日夜着

第三號

本使發天津宛電報

第二號

岸本ノ内報ニ依レハ貴地税関長ヨリ十九日總稅務司ニ對シ冀察委員會ヨリ謄寫版刷ノ文書ヲ以テ今後稅收ヲ同委員會ニ引渡方要求アリタル次第ヲ電報シ處置振ニ付請訓シ來レリ(謄寫版刷ナル點ヨリスルモ各種徵稅機關ニ同文ノ通牒ヲ發セルモノト思ハルルモ之ニ次テ海關監督ヨリ稅関長ニ對シ關稅收入、海關經費等至急報告方命令アリタル關係モアリ冀東政府ノ申出等ニ比シ特ニ重要視シ居ルカ如シ)稅

冀察政務委員會の關稅收入抑留計画に関する報道について

上海 1月23日夜発
本省 1月23日夜着

第四號

本使發天津宛電報

第三號

往電第二號ニ關シ

二十一日「デーリー、ニュース」ハ確聞スル所ニ依レハ北支政權ニ於テ關稅收入抑留ヲ計畫セルニ對シ總稅務司ハ關稅行政ヘノ干渉ハ内外債支拂及貿易ノ遂行ニモ支障ヲ來スヘク右要求ニハ應シ難キ旨天津稅関長ニ訓令セリト報シ尙冀察委員會ハ鹽稅及鐵道收入全部ヲ抑留シ其ノ内鹽稅ヨリ月額二十五萬、鐵道收入ヨリ十萬ヲ股汝耕ニ交付シ居レリトノ情報アリト附記シ居レリ
大臣、南京、北平へ轉電セリ

734 昭和11年2月5日 在中国武藤大使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

關長トシテハ中央ヨリノ命令無キ限り稅收ヲ他ニ引渡ス譯ニ行カス又冀察委員會ノ通牒ヲ中央ノ命令ト解スル譯ニモ行カサルニ付廿日「メーズ」ハ孔祥熙ニ面會懇談セル處孔ハ「メ」ニ對シ客年來關稅收入減少シ内外債ノ支拂ニモ不足ヲ來スヤモ測リ難ク關稅剩餘皆無ニ近キ趨勢ヲモ説明シ引渡拒絶方善處スヘキ旨申渡シタル趣ナリ尙右ト行違ニ廿日更ニ天津稅関長ヨリ電報アリ右ニ依レハ冀察委員會ヨリ舊年關ニテ資金必要ニ付稅收引渡困難ナルニ於テハ一時關稅收入中ヨリ前借ヲ得度キ旨申出アリタルモ稅関長限リニテ前借ハ前例ナク中央ノ命令ヲ要スルニ付委員會ヨリ中央ニ交渉セラレ度キ旨回答セル趣ナリ
既ニ御承知カト存スルモ爲念貴官限り御含迄(岸本トシテハ本件ヲ當方ニ内報スルコトハ「メーズ」(ト)話ヲ着ケタル上ニハアラサルニ付當分出所及内容極秘トセラレ度シトノコトナリ)
大臣、南京、北平へ轉電セリ

733 昭和11年1月23日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會の財政状態に関する同委員會財務処長の説明振りについて

北平 2月4日夜発
本省 2月5日前着

第九號

天津發閣下宛電報第一號ニ關シ

冀察政務委員會財務處長過之翰ハ四日當館ヲ來訪本官ノ質問ニ答ヘ左ノ通り同委員會ノ財政状態ヲ説明セリ

一、關稅ノ接收ハ對内外種々ノ關係上面倒ニテ中々成功セス現在ノ所前軍事分會ニ對スルト同様中央ヨリ關稅收入中ヨリ月額百萬元ヲ交付スルコトトナリ居ルモ實際ハ中央ヨリノ交付滞り勝ニテ最近ノ如キハ月額五、六十萬元ニ過キサル状態ナリ

二、關稅以外ノ國稅即チ鹽稅、統稅、菸酒稅、印花稅等ハ全部直接冀察政務委員會ノ收入ニ歸シ中央ニ送金セサルコトトナリ又從來東北軍ニ對シ支出セル月二百萬元並ニ青島第三艦隊ノ經費補助同十二萬元ハ之ヲ停止シタルカ其ノ代リ中央ヨリモ軍事分會存在當時受ケタル百萬元ノ補助ヲ受ケサルコトトナレリ

三前軍事分會ノ經費ハ中央ノ責任ニ於テ之ヲ支辨シ居リタル爲大ナル過不足無カリシモ冀察政務委員會ハ前記ノ通り直接稅收ニ依リ自ラ財政ノ切盛ヲ爲スコトナリタル爲稅收ノ増減其ノ他ニ依リ少カラス影響ヲ受クルコトトナレリ

四鹽稅ノ收入ハ年二千萬元ト見積ラレ居ルモ其ノ内借款擔保部分ハ天引セラレ(年約二百五十萬元)冀東自治政府へハ月額二十五萬元ヲ交付スルコトニ話合着キタル爲冀察ニ入ル部分ハ年千五百萬元ニ達セス且最近ハ減收ノ傾向アル爲軍事分會當時ノ如ク鹽稅收入トシテ月額百四十萬元ヲ見込ムコトハ到底不可能ナリ

五統稅及菸酒稅、印花稅等ハ元來月收入七、八十萬元アリタルモ冀東自治政府成立ノ結果同區域内ノ稅收ヲ失ヒ且ツ稅收一般ニ減少セル爲現在ハ僅ニ三十萬元前後ニ過キス

六鐵道收入ノ内北寧ヨリ月十五萬元平綏ヨリ同五萬元ヲ取ルコトハ前軍事分會當時ト異ラス

七以上ノ通り冀察政務委員會ノ收入ハ假ニ關稅百萬元カ確實ニ入ルトスルモ月額總計三百萬元ニ足ラス之ニテハ冀

冀察ト中央トノ話合トハ一月末北平ニ於テ張公權ト陳中孚トノ間ニ取交ハサレタル申合ニシテ其ノ内容ハ大體左記ノ通ナル趣ナリ(重複又ハハツキリセサル點アルモ御參考迄電報ス)

一中央ハ關稅剩餘ノ内ヨリ毎月補助金百萬元ヲ支給ス毎月北平中央銀行ヨリ直接冀察政務委員會財政處ニ交付ス但シ往復ノ爲替手續ノ煩雜ヲ慮リ豫メ財政部ヨリ百萬元ヲ支出シ北平中央銀行ニ保管シ流用ニ備フ

二鹽稅毎月百五十萬元ハ長蘆稽核分所ヨリ直接冀察政務委員會財政處ニ交付ス

三北寧鐵路毎月ノ援助金(協款)十五萬元平綏鐵路毎月援助金五萬元ハ孰レモ毎月直接冀察政委會財政處ニ交付ス
四青島市ノ毎月海軍第三艦隊ニ援助スル十萬元ハ直接該艦隊ノ經費ニ充當ス(青島市ノ本協款ハ從來軍分會ヲ經由シ居リタル模様ナリ)

五其ノ他中央ノ各收入機關ニシテ凡ソ冀察區域内ニアルモノハ毎月經費及償還スヘキ債務分擔額ヲ控除シ其ノ他ノ全額ヲ毎月十日冀察政務委員會財政處ニ送付ス

六北寧、平綏及長蘆稽核分所ノ收入ハ各項目ノ支出及毎月

四 華北問題

察政務委員會所管ノ政費及軍費ヲ支辨スルサヘ困難ニシテ地方開發事業ニ手ヲ染ムルカ如キハ全ク不可能ナリ
ハ一方冀察兩省政府ノ財政狀態モ不良ニシテ河北省年收千二、三百萬元、不足四、五百萬元、察哈爾省年收二百萬元、不足四、五十萬元ナルカ冀察政務委員會トシテモ之ヲ援助スル途無キ次第ナリ
九之ニ反シ冀東自治政府ハ中央、地方諸稅ヲ合計スレハ年約八百萬元乃至一千萬元ニ上リ財政狀態ハ寧ロ裕福ト云フヘシ
支、南京、天津、滿へ轉電セリ

735 昭和11年2月22日 在天津川越總領事より 広田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員會の經費支弁に関する国民政府 中央と同委員会との合意事項について

天津 2月22日午後發 本省 2月22日夜着

第五七號 往電第五一號末段ニ關シ

ノ一定負擔額ヲ控除シ剩餘金アラハ該局所ニ積立テ臨時建設費ニ備フ(兩鐵路ノ毎月一定負擔額ハ別ニ詳細ナル表ヲ附ス)

北寧鐵路ノ剩餘金若シ相當ノ額ニ達シタルトキハ適宜三分ノ一ヲ割キ鐵道部第一期建設公債基金ト爲ス

七軍分會經費月額二十六萬三千八百四十一元五角一分ハ全部冀察政務委員會經費ニ充當ス

八獨立第四十六旅、第百十七旅、第百十八旅、騎兵第三十四旅、自動車第一隊及砲兵三個旅ノ給與計三十五萬七百七十一元七角八分ハ毎月全部差止メ二十九軍ニ交付シ給與ノ不足ヲ補フ

九以上各項ノ辦法ハ中央ヨリ冀察中央收入機關ニ命令スルト同時ニ冀察政務委員會ニ通知シ施行セシム
一〇冀察區域ノ軍政費ハ毎月現洋四百一十一萬三千三百三十三元五角二分ヲ要ス

二以上各項收入ハ毎月末冀察政務委員會財政處ヨリ不足額ヲ計算シ財政部ニ補給ヲ電請ス
支、北平、南京、青島、濟南、滿へ轉電セリ

昭和11年4月18日

在天津川越總領事より
有田外務大臣宛(電報)

華北における外国銀行の現銀処分および冀察
政務委員会への補助金問題に関する天津税関
監督の内話について

付記一 昭和十一年四月一日付移牒、永見(俊徳)支那

駐屯軍參謀長より西尾參謀次長宛電報

華北幣制統一および税関接收問題に関する蕭

振瀛内話について

二 昭和十一年五月十三日付移牒、永見支那駐屯

軍參謀長より西尾參謀次長宛電報

右問題の進捗に関する蕭振瀛内話について

三 昭和十一年一月十六日付、東亜局第一課作成

「支那幣制改革一般問題ニ對スル帝國政府ノ
對策竝北支幣制自治ニ關スル指導方針試案
(第一次案)ニ關シ大藏省側ト意見交換ノ件」

天津 4月18日後発

本省 4月18日夜着

第一五六號

萬元也ノ補助金ハ一月分ハ受領セルモ二月以來未收トナ
リ居レル次第ナルカ自分ハ孔部長ニ對シ中央カ飽迄右百
萬元ノ補助ヲ拒ムニ於テハ冀察側ハ已ムヲ得ス天津海關
ヲ接收スルコトトナルヘシト申入レタル處孔ハ右補助金
ハ元來張學良ニ對スル送金ナルニ冀察側カ之ヲ張學良ニ
廻ササリシニ依リ二月以來右百萬元ヲ中央ヨリ張學良へ
直接送金シ居ル次第ナリトテ容易ニ百萬元ノ補助ヲ肯セ
サリシモ自分カ執拗ニ要請セル結果四月ヨリハ之ヲ送付
スヘシトノ言明ヲ取付ケ同時ニ二、三月兩月分ノ未收ハ
三分丈ケ支出方考慮スヘシト約セシメタルカ中央カ右
約束ヲ果シテ實行スルヤ否ヤ頗ル怪シク結局自分トシテ
ハ冀察カ右送金停止ヲ理由トシテ天津海關ノ接收(收)ニ迄
進ムノ事態ニ立至ルト思ハル尙現在天津海關ノ收入ハ每
月二百萬元強ニシテ中央ニテハ密輸ニ依ル減收額ヲ百萬
元以上ト推定シ居レリ

三 中央ハ自分ノ觀ル所張群、何應欽及孔祥熙ノ「トリオ」
カ中心勢力ニテ特ニ何應欽ハ宋哲元ニ對シテハ好ク言ハ
ス併シ自分ハ何應欽カ燒餅ヲ燒キ居ルヤノ感觸ヲ得タリ
支、南京、北平、青島、濟南へ轉電セリ

⁽¹⁾最近南京ヨリ歸來セル林世則。カ中央トノ打合ノ結果ニ付館
員ニ語ル所左ノ通

今回ノ用務ノ主ナルモノハ平津外國銀行ノ法幣兌換問題、

冀察財政補助金問題等ナルカ先ツ

一、外銀法幣兌換問題ハ二月上旬天津海關監督タル自分(林)

ニ平津外銀(邦人銀行ハ關係ナシ)ヨリ財政部發給ノ現銀

上海移出許可證ノ加印ヲ求メラレ税關長ヨリ頻リニ加印

承諾ヲ強ヒタルモ事北支現銀ノ持出シニ關ハルヲ以テ加

印ヲ肯セサリシ處中央ヨリ海關監督カ中央ノ許可ニ對シ

加印ヲ拒絕スルハ不都合ナリト訓令越シ數次論争ヲ重ネ

タル次第ナルカ今次南京ニテ孔祥熙ト折衝ノ結果平津ニ

テ上海ノ辦法ヲ援用シテ差支ナシト言フコトトナリタリ

何レ色々相談ヲ願度ク思ヒ居ルモ自分トシテハ平津ノ中

央、交通、中國ノ三銀行ヲシテ右辦法ニ依リ處置セシム

ル積リナリ

(註、外銀手持銀ハ正金ノ推定)ニ依レハ天津九百三十

萬元内邦人銀行五百三十萬、北平六十萬内正金數(脱)元

ナリトノコトナリ)

三、次ニ冀察財政補助問題ハ御承知ノ通り南京ヨリ月額一百

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

(付記一)

天津發

參謀本部 着

蕭振瀛カ昨三十一日永見參謀長ニ語ル所次ノ如シ

一、北支幣制統一ノ爲過日來準備委員會ヲ設ケ之カ研究ニ着

手セシムルト共ニ河北省銀行ヲ基幹銀行ニ内定シ一方天

津市内支那側各銀行ノ保管現銀ヲ更ニ嚴重ニ保管シ將來

ノ爲準備中ナリ但何分ニモ之カ準備ニハ數箇月ヲ要シ一

方之カ部外ニ洩ルル時ハ中央、中國及交通等ノ諸銀行ヨ

リ壓迫ヲ受ケ撃破セララルノ危険アリ之ヲ避クルコトニ

特ニ意ヲ用ヒアリテ準備委員會ノ人員モ最少限ニ限定シ

アリ

二、税關ノ接收ハ冀察政務委員會成立ノ當時ヨリ既ニ實行ス

ヘク決心アリシモ外國ト問題ヲ起スル(ツラ)慎重ニ時期ト

方法トヲ考究中ナリ南京政府カ去ル一月關稅接收ヨリ每

月一百萬元ヲ冀察政權ニ支給スルト云ヒ乍ラ一月分ヲ支

給シタルノミニシテ其後ハ全く支給セス冀察側ハ之ニ憤

概シ今三十一日夕林世則ヲ南京ニ派シ支給方ヲ交渉セシムル考ナルカ林カ南京ニ赴クモ到底解決セサル問題ナリ關稅ヲ徹底的ニ解決スル爲ニハ接收ノ外ナキニ依リ接收ノ準備出來次第接收スル決心ナリ(當部ハ遅クモ五月中ニハ接收セシムル意見ナリ)

三、尙此際參謀長ハ日本側財政顧問ニ對シ毎月ノ冀察政權ノ收入及支出ヲ明示セサルハ不都合ニシテ斯クノ如キハ北支ノ政治ヲ不明朗ナラシムルモノト語リタルニ蕭ハ御說ハ尤モナリ四月ヨリハ必ス明示スヘシト約束セリ

(付記二)

天津 發

參謀本部 着

一、肅振瀛ハ劉公安局長、林稅關監督、何塩運使、劉教育局長等各當事者ト共二十一日永見參謀長ヲ訪問シ冀察當局ノ施政進捗景況及將來ノ抱負ヲ具陳セシカ其概要次ノ如シ

1、排日取締

抗日の文書ハ固ヨリ日支兩國ノ感情ヲ刺戟スルカ如キ

有名無實ナリ)ヲ要求シ關稅行政及收入ノ全部(内外債負擔ヲ除ク)ヲ實質的ニ接收スル如ク考究中ナリ(註内債負擔分ニ關シテハ更ニ考慮スヘキ意圖アルカ如シ)

4、金融

冀察側ノ金融機關トシテハ河北銀行ノミニシテ他ハ悉ク南方系ナルカ故ニ金融勢力掌握ノ爲ニハ河北銀行ヲ中心トスル他ナシ然ルニ同行ハ未タ信用及資力薄ク紙幣發行高千五百元ニ過キササルヲ以テ中央系三行ノ發行高一億元ニ比スヘキモアラス、從テ河北銀行ノ實力養成ノ爲ニハ相當時日ヲ要スヘキモ先ツ冀察政權及兩省ノ庫金出資ヲ集中シ紙幣ノ發行ハ本年末迄ニ五千萬元來年ハ一億元迄ニ増加シ遂次中央系銀行ノ勢力ヲ驅逐スル考ニシテ暫幣發行準備ハ河北、交通兩行ノ暫幣ヲ回收シテ之ニ充ツル豫定ナリ

尙補助貨鑄造ノ企圖ヲ有ス(註冀察側ハ法ヲ以テスル發券統一及現銀ノ回收等ハ考ヘ居ラサル如ク徹底セサル點多シ)

二右ノ陳述中ニハ軍ノ方針ト一致セサルモノアルモ取敢ス參謀長ハ彼等ニ對シ「自發的ニ政治ノ進捗並將來ノ抱負

文書ハ徹底的ニ取締ヲ勵行シ又各圖書館ノ藏書及購入圖書主要書店ノ發行圖書等ニ對シテモ同様ノ取締ヲ行ヒ小學校教員ノ身元ハ嚴重ニ調査シ居レリ、官立學校ニ對シテハ監督權ナキモ市政府ヨリ視察員ヲ派シテ監視シアリ尙新聞雜誌及講演ノ許可取締監視等ハ警察側ニ於テ責任ヲ以テ實施シアリ

2、赤化思想防止

天津ニ在ル北洋、法商、南開三大學中後者ハ概ネ思想穩健ナルモ前二者ハ赤化思想侵潤ノ虞アリ此等學生ノ取締ハ密偵ト共ニ同校出身者及學生ノ一部ヲ利用シ公安局、憲兵モ之ニ協力今迄ニ逮捕セル者二十二名ニシテ他ニ嫌疑者十二名アリ、證據舉リ次第逮捕スル筈

3、關稅接收

冀察側ニ於テ關稅ヲ接收スルノ要ハ一致セル意見ナルカ平和裡ニ接收スル爲名目ヲ得ルニ腐心シアリ若シ南京カ遂ニ之ニ應セサル場合ハ強制接收ノ決心ナリ、平和裡接收ノ手段トシテハ稅務司ヲ稅關監督ノ指揮下ニ置キ冀察側ハ稅關監督ヲ通シテ稅務司ヲ牛耳ル制度(從來ノ實情ハ稅務司絕對權力ヲ有シ稅關監督ハ

ヲ述ヘラレシハ寔ニ多トスル處ナルモ百ノ理論ハ一二實行ニ如カサルニ付萬難ヲ排シテ軍トノ申合諸件ヲ速ニ實行セラレ度」旨述ヘ置ケリ

三、最近ノ冀察首腦部ノ動向及今次ノ會見等ヨリ觀ルニ冀察當局ハ日本ト合作シテ施政ヲ行ハントスルノ氣運漸ク萌シ來レルニアラスヤト認メラル

(付記三)

支那幣制改革一般問題ニ對スル帝國政府ノ對策並北支幣制自治ニ關スル指導方針試案(第二次案)ニ關シ大藏省側ト意見交換ノ件

十一年一月十六日

曾禰記

標記試案ニ付豫テ大藏省理財局湯本國庫課長及櫛田事務官ニ意見開示ヲ求メ置キタルカ一月十六日櫛田事務官ト概要左ノ如キ「フリートキング」ヲ爲セリ(當方曾禰及石黒出席ス)

一、支那幣制一般問題對策ト北支幣制對策トノ關係

櫛田ハ右兩者ノ關聯性ニ鑑ミ北支幣制對策ヲ論スルニ先

シ支那幣制ノ見透ヲ付ケルコト必要ナルヘキ處右見透ハ如何ト問ヘリ

當方ハ成程理論的ニハ榭田ノ意見ヲ首肯スルモ實際問題トシテハ北支幣制對策ハ支那幣制ノ成行如何ニ拘ラス大綱ヲ定メ置ク要アリ(然ラサレハ現地ニ於テ勝手ニ實施スルノ危險ナシトセス)而モ「試案」ニ於テハ北支幣制ノ内容ハ概ネ現在ノ支那幣制ニ倣^倣ヒ之カ不都合ナル重要點ノ是正ヲ圖リタルニ止リ細目ハ支那幣制ノ成行ニ順シテ調整シ得ル如ク相當ノユトリヲ附ケアルヲ以テ差支ナシト思考スル旨答ヘ

榭田之ヲ首肯シ北支幣制對策ヲ先議スルコトトセリ

ニ北支幣制區域ノ限界、北支幣制自治實施ノ可能性

榭田ハ北支ニ特殊ノ幣制ヲ實施スルコト之カ内容及地域的限界等ヲ論スルニ當リテハ先ツ北支自治ナル政治的條件ノ内容ヲ知ラサルヘカラス、即チ北支カ獨立ト迄行カサルニシテモ北支五省ト中支トノ間ニ異レル關稅制度ヲ施キ兩區域ノ境界ニ關稅線カ作ラルルモノナリヤ、財政自治ト云フモ北支ノ對外及對中南支(沿岸)貿易ノ「パランス」カ如何、對外及對中、南支爲替相場ヲ維持スルノ

資本ノ逃避カ行ハルルモノト思考セラレサル旨答フ

榭田ハ資本逃避ノ防止ハ爲替管理ニ依リ又北支産業ノ勃興及中南支ノ幣制混亂等ノ事情ノ下ニ於テ相當實効ヲ擧ケ得ヘキコトハ肯定スルモ北支中央銀行紙幣ノ形ニ於テ中南支ニ資本逃避カ起ル場合ニ於テ北支幣制ハ「デフレーション」ニ依リ困ルコトナキヤ又之カ對策アリヤカ問題ナリト述フ

右ニ對シ當方ニ於テハ人爲的ノ防止策カ困難ナルコトヲ認ムルト共ニ果シテ右ノ現象カ起生スルヤハ北支ノ財政、經濟政策、中南支ノ幣制財政狀態トノ比較ニ依リ決定セラルヘク今ヨリ豫斷スルコト困難ナリ、而モ一時的ニ多少ノ資本移動カ行ハルルトスルモ北支ニ於ケル日支經濟提携ノ進行宜シキヲ得ハ窮極ニ於テ些シタル心配ナカルヘシト認ムル旨説明ス

榭田ハ大体ニ於テ之ヲ肯定スルモ一時的ノ資本逃避ニ對シ萬全ノ措置ヲ講スル方可ナルヘキ意見ナリ

ニ北支幣制ノ細目

(一) 華北準備公庫組織大綱

(イ) 出資者、政府トノ關係

可能性如何、浙江財閥ノ北支投下資本逃避ニ對スル對策如何等カ根本問題ナリト述フ

當方ハ北支自治ノ内容ハ未定ナルモ漸進主義ニ依リ差當リ財政上ノ或ル程度ノ自治ハ必要ト認ムルト共ニ北支ト中支トノ間ニ關稅線ヲ設クルコトハ不可ト思惟シ居レリ、幣制自主ノ内容ニ付テハ極メテ大雜把ニ言ヘハ大体西南並ミトスルヲ差當リノ目標トシ具體的ニ言ヘハ例ヘハ中央銀行紙幣カ北支ニ流通スルコトハ政治的見地ヨリ排除シ度意向ナリ、將又果シテ北支ニ獨特ノ幣制カ施行シ得ルヤニ付テハ素ヨリ充分調査ヲ要スル義ニシテ折角研究ヲ進メツアルモ前述ノ如ク北支ヲ完全ニ中南支ヨリ分離セムトスル譯ニハ非サルヲ以テ關稅自主ヲ行ヒタル北支ノ對外及對中南支貿易力如何ニナルカ迄考慮ノ上ナラテハ北支幣制對策ヲ決定シ得サル次第ニハ非サルヘシ、更ニ北支ニ於ケル浙江財閥ノ投下資本逃避ニ對スル對策ニ付テハ素ヨリ充分考慮スル要アルモ滿洲ノ場合ト異リ中支ヨリ完全ニ獨立スル譯ニモ非サルコト、北支ニ有望ナル産業ヲ起シ得ヘキコト、中南支ノ幣制混亂狀態モ繼續スルモノト認メラルルコト等ニ鑑ミ必スシモ中南支ニ

當方ヨリ大綱案ハ出資者ヲ各銀行、錢莊等トナシ居ルモ必スシモ北支ニ在ル銀行、錢莊ヲ網羅スルノ要ナク又政府ノ出資ヲ絕對ニ排除セムトスル趣旨ニハ非ス唯滿洲國ノ場合又ハ南京政府ト異リ北支ニハ北支政權側ノ強力ナル官系銀行ナク從テ之ヲ中心トシテ新準備公庫ヲ組織スルノ便宜乏シキコト之レ即出來得ル限り廣ク各銀行錢莊ノ共同出資ヲ求ムルコト可然シト認メラルル所以ナリ。又政府出資ニ付テハ買上銀ノ賣却差益ヲ出資セムトスル案モアル處國際銀價ノ現狀及將來不安ナルニ顧ミ斯クノ如キ不確實ナル方法ニ依ル出資ハ問題トナラサルヘシト述フ

榭田ハ政府ト中央銀行トノ分離ハ寧ロ世界ノ大勢ニ逆行スルモノナルモ支那ニ就テハ成ルヘク政府ノ干渉ヲ避ケシムルコト可然又政府ノ監督カ或ル程度迄必要ナリトスルモ出資即株主トシテノ監督ニ依ルコトハ舊式ナリ寧ロ理事者ノ任免權ヲ握ルコト適當ト認ムル旨述フ

(二) 業務

榭田ハ貨幣ノ發行、鑄造及爲替操作其ノ他再割引等

ノ中央銀行ノ業務ノミニテハ準備公庫ハ殆ント利得ナカルヘク或ル程度迄一般銀行トシテノ業務ヲ兼營セシムルコト必要ナラサルヤニ考フル旨述フ

當方ヨリ右ニ對シ必スシモ一般銀行ノ業務ヲ兼營セシメサル趣旨ニ非サルモ發券銀行、再割引銀行及爲替銀行トシテノ獨占權ヲ與フルコトカ急務ニシテ又他ノ銀行ノ出資ヲ得テ設立セムトスル以上ハ此等出資銀行ノ競爭者タラシムルコトハ困難ナルヘク更ニ一舉ニ北支各銀行ノ業務ヲ膺ス如キコトハ賢策ニ非サルヘシ、依テ飽ク迄當分ノ間ハ前記中央銀行トシテノ業務ニ主力ヲ注クコトトシ適當ナル時機ニ於テ例ヘハ農村金融等ニ乘リ出サシムルコトハ宜シカルヘシ此ノ點更ニ研究ヲ俟ツノ要アリト答フ

(イ)爲替操作

對外爲替ノ外對上海爲替操作ノ要アルコト勿論ナルヲ以テ其ノ通大綱案五項ノ「レダクシヨ」ヲ修正スルコトニ意見一致ス

(ニ)理事者ノ構成

當方ヨリ理事者ノ構成ハ各出資者(銀行、錢莊)商會收ニ關シ如何ナル腹案アリヤト問フ

當方ヨリ前記華北準備公庫設立ノ趣旨ヲ以テ明カナル如ク根本ノ考方カ滿洲國中央銀行ト異リ既存銀行ノ全部又ハ一部ヲ新政權カ接收シ以テ新ナル中央銀行ヲ設立セムトスルニ非ス從テ差當リハ既存銀行ノ資産負債ノ一般の繼承ハ考ヘ居ラサル次第ナルカ將來銀行ノ合併問題等發生スレハ其ノ際ハ榦田意見ノ如ク特ニ浙江系銀行側ノ出方ニ充分注意ヲ拂フヘキ旨答フ

(イ)金銀ノ移動ニ關スル統制

榦田ヨリ金銀ノ對外及對中南支移動ニ關シ何等規定ナキカ如何ト問フ

當方ヨリ右ハ大体支那ノ現制度ヲ其ノ儘踏襲スル積リナルヲ以テ別ニ規定セサリシ旨説明ス

榦田ハ銀ニ對シ輸出稅及平衡稅ヲ賦課スル遣口ヨリモ寧ロ端のニ輸(移)出禁止ノ方法ニ依ルコト可然旨述フ

四 支那幣制一般ニ對スル修正案細目

(イ)地方的準備ニ基ク地方的發券統一

側代表者トシ之カ任免權ハ政府ニ歸屬セシムル腹案ナリト説明ス

榦田ハ右ヲ大綱中ニ一項ヲ設ケテ記載スルコト可然旨述フ

(ニ)銀買上、紙幣ノ回收、金銀ノ移動ノ取締

(イ)民間在銀ノ買上

榦田ハ銀紙平價買上ニ依ラサルコトハ甚タ結構ナルモ「プレミアム」附買上ノ結果ハ紙幣ノ「デプリシエーション」ヲ來ス譯ニテ從テ上海トノ爲替相場ニ影響アルヘシト述フ

當方ヨリ右ハ素ヨリ覺悟ノ上ナルモ北支ニ於テ平價以上ニテ買上クレハ中南支側ニテモ之ニ對抗シ平價以上ニテ買上ヲ實行シ來ラサルヲ保シ難ク一時的ニハ北支ヨリ中南支ニ對スル挑戰トナルトモ窮極ニ於テハ北支ノ善政ニ南京側ヲ追從セシムルコトトナルモノト豫想セララル旨ヲ述フ

(ロ)銀行準備銀ノ回收、銀行資産ノ接收

榦田ヨリ銀行準備銀回收ニ關シ充分ノ考慮ヲ拂フコトニハ贊成ナルカ右ノ外準備銀以外ノ銀行資産ノ回

榦田ヨリ右ハ米國ノ聯邦準備制度ニ倣ヒ例ヘハ各幣制區域間ニ於テハ相互ニ紙幣ノ流通ハ禁セス銀行ニ於テハ他方ノ發行ニ係ル紙幣ヲ何時ニテモ「パー」ニテ自方ノ紙幣ニ引換ヘ銀行間ノ貸借關係ハ中央準備局(?)ニ於ケル各自ノ勘定ニ於テ決済スル如クスル積リナリヤト問フ

當方ヨリ將來ハ別トシ現在ニ於テハ特ニ北支ニ對スル政治的考慮ヨリシテ前記ノ如ク南京側中央銀行ノ紙幣ノ北支ニ於ケル流通ノ如キハ認ムルコト能ハス、又北支銀行ト中南支銀行トノ間ノ貸借關係ノ決済モ一ツノ中央準備局ニ於テ決済スル如キハ右中央準備局ヲ中支ニ置クコトカ問題トナルヘキヲ以テ實行困難ナリ、故ニ暫クノ間ハ各幣制區域ノ間ニハ爲替決済ニ依ルノ不便ヲ我慢セサルヘカラスト思惟スル旨説明ス

(ロ)貨幣制度ノ基本

當方ヨリ支那幣制ノ基本ヲ如何ニスヘキヤハ內政、外交一般ニモ關聯スル難問題ニシテ今直ニ確然タル意見ヲ表明スルコトノ困難ナルハ言フ俟タサル所ナルト共ニ現行制度カ絕對ニ不可ナル譯ニモ非スシテ之カ運用

河北省銀行の強化に関する蕭振瀛天津市長
らの工作について

付記一 昭和十一年五月七日付、支那駐屯軍司令部作成

「冀察幣制ニ關スル打合」

二 昭和十一年五月九日付、支那駐屯軍司令部作成

「冀察金融情勢判斷」

天津 5月23日後発
本省 5月23日後着

第二〇五號(至急)

貴電第九三號及支發本官宛電報第二二號ニ關シ

往電第一五六號ノ二ノ上海ノ辦法ニ付當時林ヨリ財政部モ

將又上海ノ中國、交通、中央三行モ満足ナル説明ヲ爲シ吳

レストテ零セルニ依リ客年支發閣下宛電報第一〇六二號、

第一一七三號、第一一七四號其ノ他關係書類ニ基キ然ルヘ

ク吞込マセタル處同人ハ早速蕭振瀛ト協議ノ上天津ノ前記

三行(以下三行ト略稱ス)ヲシテ關係七外銀(華比、華義、

花旗、匯豐、中法、工商、德華、渣打)ニ對シ法幣兌換ヲ

爲サシムル様態憑スル所アリタルカ(兌換ノ方法ハ示ササ

リシ模様ナリ)三行カ之ヲ拒絕セルヲ以テ偶々蕭トシテハ

ニ當ル者ニ信用ヲ置キ難キコトト第三國ニ對スル依頼
心トカ日本側ヲシテ種々ノ難點ヲ指摘セシムル主ナル
原因ナリ、從テ差當リノ問題トシテハ我方ニ對スル協
力方ノ誠意及我方ノ顧問備聘等ノ條件ノ具備セル上ハ
大体現行制度タル一種ノ管理通貨ヲラシムルコトニ反
對スル理由ハナクナルモノト考フル旨説明ス
(イ)發券準備ノ内容、銀ノ海外賣却
當方ヨリ發券準備ニ付テモ大体支那側現制度ヨリモ餘
リニ進ミタルモノハ面白カラス、正貨準備ノ割合モ六
割位カ妥當ナルヘク又銀ヲ準備ニ充テルコトハ支那側
ニ信用ヲ置キ得ル状態ニ到ラハ却テ如何カト思ハルル
モ從來我方ノ主張モアリ將又賣却銀カ果シテ其ノ儘爲
替資金トシテ保有サルルヤ不明ナル今日ニ於テハ一應
銀ノ保有方ヲ主張シ置クコト可然シトノ意向ナル旨説
明ス

737

昭和十一年5月23日

在天津岸總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

河北省銀行を通じてた外国銀行所有銀兌換およ

我方軍部ヨリ幣制獨立ニ關シ要請ヲ受ケ居レル次第モアリ
(北平發閣下宛電報第一〇八號)河北省銀行ヲシテ之ヲ行ハ
シムルコトニ決シ兌換辦法ヲ案出セリ

即チ右辦法ハ河北省銀行券ハ信用不充分ナルヲ以テ先ツ三
行ヲシテ外銀ニ對シ現銀ト引換ニ三行券ヲ渡シ且右引換券
ノ三分ノ二ニ相當スル額ニ對シ向フ二年間五分二期拂
ノ利子ヲ支拂フ約定ヲ爲サシメ次ニ河北省銀行ヲシテ三行
ヨリ右現銀ト引換ニ同額ノ河北省銀行券ヲ渡シ三行ノ外銀
ニ對スルト同様ノ利子約定ヲ爲サシメントスルモノナルカ
右辦法ノ話合ハ三行ハ勿論外銀側トモ順調ニ進行シタルモ
五日愈河北省銀行ト外銀側ト最後ノ打合ヲ行フ日ニナリ豫
テ是等三行ヨリ密ニ各本店へ請訓シ本店ヨリ差止命令アリ
タルモノト見エ當地交通銀行經理突如右會合ニ現レ面白カ
ラサル態度ヲ執リタル結果右會合ハ有耶無耶ニ終レリ茲ニ
於テ蕭ハ即日三行經理ヲ呼付ケ三行ヨリ本店ニ對シ現銀ノ
現狀ニテハ命令通り措置スル能ハスト直ニ打電セシムルト
共ニ蕭ヨリ孔祥熙ニ對シ「三行カ部長ノ許可ニ係ル法幣兌
換ヲ拒否スルコトハ勿論河北省銀行ニ對スル援助約定ヲ破
ルハ不都合ナリ河北省銀行ノ受入ルル現銀ハ他銀行同様天

津準備保管分庫ノ管理ニ歸セシムルモノニシテ之ヲ私スル
ニアラス至急三行本店ニ對シ援助約定方嚴命アリ度シ」ト
ノ電報ヲ發シタリ

此ノ間外銀側モ各上海支店ヨリ河北省銀行トノ接觸ハ面白
カラストノ電報アリタル模様(當時林ノ談)ナルモ十日ニ至
リ孔ヨリ蕭宛原案通り實行方措置セリトノ回電ニ接セリ

其ノ後蕭及林ヨリ三行側ニ於テ不滿アル爲商議中ナリトノ
話アリタルカ十八日北平ヨリ來津セル林ヨリ實ハ右三行ノ
顔ヲ立テル意味ニテ平津外銀ノ手持銀五百九十萬元(内天
津ハ四百七十萬元)ノ内四百萬元丈ケ河北省銀行カ前記三
行仲介辦法ニテ又殘額ハ三行カ外銀トノ間ニ同額引換、引
換額ノ三分ノ二ニ利子ヲ附スル前記辦法ニテ本件兌換ヲ實
行スルコトトナリタリト語り又最近蕭ノ談ニ依レハ河北省
銀行ハ大部分ノ兌換ヲ了シ既ニ現銀ヲ收受シツツアリトノ
コトナリ

(以下極秘扱)

本件兌換問題ハ蕭、林二人ノ工作ニテ當初ヨリ軍側ヘハ協
議無ク從テ軍側ヨリ幣制獨立ニ關聯シ本件事前指導等ノコ
ト無シ軍ニテハ今日本件ヲ以テ南京カ河北省銀行ノ特殊性

ヲ認メタルモノト解シ

延イテ末、蕭トノ間ニ折衝シ居レル幣制獨立問題カ今ヤ河北省銀行ノ北支中央銀行化ト謂フ實際工作ニ移行シ居レル關係上(本項追報ス)現銀ノ入手ニ依リ同銀行ヲ強化シ得ヘキ本件蕭、林等ノ措置ハ右工作ノ進展ニモ資スヘキモノナリト認メ居レリ

事情右ノ通ニシテ今更話合ノ延期ハ困難ナル處當方トシテハ往電第一五六號ニ付御訓示ニ接シ居ラサル一方支宛貴電第一號ノ次第モアリ旁現ニ當地邦人銀行側ハ何等直接關係無く且遡ツテ客秋支那幣制改革ニ關聯シ關係當局ニテ華北現銀抑留方策審議ノ際外銀手持銀ノ積出ハ之ヲ差止ムル手モ無ク精々支那銀行ヲシテ積出停止ノ「モーラルサポート」ヲ要請セシムル外無シトテ外銀手持銀ハ實ハ諦メ居リタル次第ナレハ林ノ本件外銀ノ積出阻止ハ前記事情ヨリ見レハ意外ノ儲物トモ稱スヘク將又動モスレハ三行等カ南京側ノ經濟政策遂行機關化セントスル嫌(邦人ノ支那紡引受ハ政府系銀行兎角反對ス本項後報ス)アル今日之ヲ益強化セシムルコトハ相當考慮ヲ要スルモノアリ更ニ政治的關係ヨリスレハ河北省銀行ハ之カ整頓ハ勿論必要ナルモ之カ強化ハ

擔當ノ責任者トシテ左記ノ者ヲ任命シ日本側トノ協議ヲ申込ミ來レリ

蕭振瀛 政務委員會委員、經濟委員會主席委員、天津市長

張振鷺 經濟委員會常務委員、元奉天省財政廳長

林世則 經濟委員會常務委員、天津海關監督、北平市財政局長

楊天受 經濟委員會委員、河北省銀行經理

依テ五月四日天津市政府ニ於テ右ノ者ト第一回ノ會合ヲナシタルカ當日ハ先ツ幣制確立ニ關スル先方ノ計畫ノ骨子ヲ聽取スルニ止メテ我方成案ノ全貌ハ之ヲ披露セス只先方案ノ内我案ト著シク相異セル點ニ付テノミ當方ノ立場ヨリノ批判ヲ加ヘ置キタリ

協議ノ内容概ネ左ノ如シ

一 先ツ新幣制ノ内容ニ就テハ中國法貨ト價值ヲ同ウシ一種ノ金爲替本位トスルコト及發行制度ハ現行制度通リトスルコトニ就テハ彼我意見ノ相違ナシ、只補助貨ニ就テハ現行銅子兒及銅子兒票ヲ其ノ儘踏襲シ、只之ヲ本位貨幣トノ間ニ一定ノ換算率ヲ法定シテ價值ノ維持ヲ圖ルコト

望間敷キ次第ナルカ故ニ當方ハ本件ノ迅速達成ヲ期セル次第ナリ
支、北平、南京へ轉電セリ

(付記一)

天參調第四四號

昭和一一、五、七
支那駐屯軍司令部

冀察幣制ニ關スル打合

附 河北省銀行ノ概況

本情報ハ冀察經濟顧問青木囑託ノ報告ナリ

配布先

次長 四

次官 三

關東軍 三

顧問部 六

冀察自主幣制施行準備第一回打合會

一、四月二十七日松室少將ト宋哲元及蕭振瀛トノ會見ノ結果冀察側ニ於テ自主幣制確立ノ意志ヲ明示シ之カ準備事務

及其ノ爲現在財政部農工銀行、河北省銀行、河北銀錢局ノ三者ニハ銅子兒票ヲ夫々發行セルヲ單一發行ニ統一シ度キ旨ノ説明ナリシヲ以テ右ノ計畫ハ

(一) 銅子兒ノ如ク全國ニ流通シ且相場ノ變動常ナキ貨幣ヲ冀察管内ノミニテ法定相場ヲ維持セシメントスルモ不可能ナルコト

(二) 南京政府ノ補助貨鑄造其他ノ理由ニ依リ將來益々銅子兒ノ需要區域ハ局限セラレ過剩銅子兒ノ冀察内氾濫ヲ來スヘキコト

(三) 公定相場維持ノ不可能ナル場合之ヲ現在ノ如ク相場ノ變動ニ放任シテ流通セシムルハ補助貨トシテノ意味ナク且農民勞働者ニ苦痛ヲ與フヘキコト

等ノ理由ヲ以テ其不可ナル所以ヲ述ヘ結局法幣ト嚴格ニ十進法ヲ以テ結合セラルヘキ新補助貨製造ヲ採用スヘキコト及右ニ就テハ

(一) 南京政府ノ補助貨ト其ノ純分及法定通用限度ヲ同一ニスルコト

(二) 民度ニ應シ一錢以下ノ鑄幣ノ必要ナルトキハ五厘、二厘、一厘等ノ製造モ差支ヘナキコト

ヲ説明セルニ之ニ同意シ右ノ趣旨ニ應シテ具體策ヲ研究スヘキ旨回答セリ

尙鑄幣ノ製造ハ天津造幣廠ニ其設備アルコト及冀ニ南京財政部ヨリ申越來レル南京補助鑄幣ノ冀察區域内通用ニ就テハ之ヲ拒否スルコトニ決定セル旨ノ説明アリタリ

三、中央銀行ノ設立ニ關シテハ河北省銀行ヲ以テ之ニ充ツル案ヲ保持セルカ之ニ對シ廣ク既存發券銀行、有力錢舖其他ノ資本參加ヲ求之ニ政府出資ヲ加ヘテ新ニ中央銀行ヲ設立スルノ是否ヲ訊ネタルニ趣旨トシテハ異論ナキモ現在北支ニ於ケル發券銀行ハ河北省銀行ヲ除クノ他ハ何レモ上海其他中支ニ本店ヲ有スル純然タル中支系統ノ銀行ノ支店ナルカ故ニ幣制獨立ノ機能ヲ有スル中央銀行ニ參加セシムルコトハ絕對ニ不可能ナル旨述フルトコロアリタリ

依テ先ツ河北省銀行案ノ趣旨ニ就テ説明ヲ求メタルニ其要旨左ノ如シ

(一)河北省銀行ハ省立銀行ナルカ故ニ本使命ノ遂行ニ最も適合ス

(二)新銀行設立ニ他ノ銀行ノ參加ヲ求ムルコト能ハサル故

行ト異リ從來ノ經營方針堅實ナルカ故ニ懸念セラルルカ如キ缺陷ナシ、若シ同行ノ内容ニ就テ疑念アラハ資料ノ提出ニ依リ當局者ヲシテ如何様ニモ説明セシムヘキカ故ニ檢査ノミハ是非差控ヘラレ度、若シ絕對ニ檢査ヲ必要トスルナラハ半年後ニ之ヲ延期セラレ度等々ノ言分ニシテ結局埒アカス遂ニ此ノ問題ハ次回迄ニ尙考慮セシムルコトトシ取敢ス左記資料ノ提出ヲ要求シ置キタリ

(一)創立後最近ニ至ル迄ノ各期貨借對照表

(二)同上損益計算表

(三)同上紙幣發行高及準備內譯

(四)冀察政務委員會其他ノ官廳ニ對スル貸付金ノ內譯

(五)同上預金ノ內譯

(六)冀察政務委員會收支取扱高月別表

(七)組織章程

(八)辦事規則

(九)監理委員會規程

(十)創立後經理ノ氏名及在職期間

(尙河北省銀行ノ概略ニ就テハ別途提出報告ヲ参照アリ度)

結局河北省銀行ヲシテ中央銀行タラシムルヨリ外ニ途ナシ

(三)既ニ右ノ意圖ノ下ニ冀察ノ收支ハ之ヲ河北省銀行ヲシテ取扱ハシメ中國法幣ヲ準備トシテ續々新紙幣ヲ發行セシメツツアリテ其ノ額既ニ百數十萬元ニ達ス

(四)準備トシテ同行ニ累積シツツアル中國法幣ハ漸次之ヲ三行ニ提示シテ銀ト引換フル見込ナリ

(五)現在同行ノ規模ハ尙小ニシテ發券ノ統一ヲ行ハシムルニ不十分ナルヲ以テ極力資力ノ充實ヲ圖リ將來適當ナル時期ニ之ヲ中央銀行ノ地位ニ引上ク、右ノ期ニ至ル迄ノ準備期間中ハ南京側ノ妨害アルヘキヲ以テ極秘裡ニ工作ヲ進ムルモノトス

右ニ對シ先ツ問題トナルヘキハ河北省銀行ノ内容ナルカ右ニ付テハ世上種々ノ噂アリ、從來兗角省財政ノ影響下ニ在リタルカ如キ狀態ナルヲ以テ若シ同行ヲ中央銀行ニ改組セントスルナラハ其前提トシテ是非共同ノ實地調査ヲ必要トス、依ツテ之ヲ要求シタルニ日人ニ依ル同行ノ檢査ハ冀察側トシテ堪ヘ得サルノミナラス同行ノ信用ニモ影響スルカ故ニ認ムルコト能ハス同行ハ他ノ省立銀

四、以上ヲ以テ第一回會合ヲ終リタルカ之ニ對スル私見左ノ如シ

(一)中央銀行設立ノ形式ヲ軍決定案ノ如ク官、商合辨トシ廣ク民間銀行ノ出資ヲ求ムルコトノ能否ニ就テハ尙研究ヲ要スヘキモ先方ノ云フ所ニモ一理ハ存スヘシ蓋シ北支發券銀行ハ河北省銀行ヲ除キ盡ク上海系銀行ノ支店ニシテ而モ最近之等ニ對スル中央ノ統制力ハ非常ニ強化サレ幣制改革ニ依ル發行權ノ三行集中ノ如キモ支障ナク進行シツツアル狀態ナルヲ以テナリ、一方ニ於テ此ノ事實ノ存シ、而シテ他方ニ於テ冀察政權ノ其礎及信用未タ十分ニ強化サレス其ノ區域内ニ於ケル統制力不十分ナル現狀ニ於テ中央系諸行カ中央ノ幣制統一ニ反スル本計畫ニ參加スヘシトハ輕々ニ考ヘラレス、尤モ右ハ今後ノ政情ノ變化特ニ南京政府カ本計畫ヲ認容スルヤ否ヤ等ニ關聯シテ成行モ自ラ異ルヘキモ若シ軍決定案ノ如キ形式ニ於ケル中央銀行ノ設立カ不可能ナル場合ニ於テハ結極河北省銀行ヲ以テ之ニ充ツルノ外途ナカルヘク、又次項ニ述フルカ如ク之ヲ改組セハ中央銀行トシテノ職能ヲ果サシムルニ敢テ不可ナカル

へシ此點軍決定案ノ變更トナルヲ以テ十分ニ研究ヲ要ス

(二)先方ノ案ノ採否如何ニ拘ラス此ノ際河北省銀行ノ内容ヲ實地ニ調査スルハ是非必要ナリ、此點力説セルモ前述ノ如ク先方ハ之ヲ回避セルヲ以テ問題ヲ次回ニ保留シ取敢ス前記十項目ノ書面調査ヲ要求セルカ之ノミヲ以テシテハ到底同行ノ真相ヲ把握スルコト能ハス是非實地検査ヲ行フヲ要スヘシ但シ若シ先方ノ面子上不可能ナラハ同行ニ日人顧問(銀行業務ノ精通者)ヲ採用セシメ其内容ヲ點檢セシムルモ一案ナルヘシト認ム

(三)河北省銀行ヲ中央銀行ニ改組セシムルノ前提要件ハ左ノ如シ

- (イ)資産負債ノ調査ヲ爲シ負債超過額ハ省出資ノ銷却ニヨリテ之ヲ補填シ殘額アラハ之ヲ適當ナル方法ニ依リ冀察政務委員會ニ於テ補填ス
- (ロ)別ニ冀察政務委員會ヨリ相當額ノ出資ヲ爲シ其ノ資力ヲ充實セシム
- (ハ)重役制度ヲ改メ之ヲ省政府ヨリ分離セシメテ獨立ノ機能ヲ發揮セシムルノ外、組織及業務規程ニ適當ナ

問 店舗ノ數並所在及行員ノ數如何

答 總行ヲ天津ニ置キ一等分行ヲ北平ニ、二等分行ヲ唐山保定、石家莊ニ、三等分行及駐莊ヲ他ノ各地ニ置ク、結局店舗ノ數ハ合計三十數ヶ所ナリ、河北省外ニハ店舗ヲ有セス、行員ノ數ハ合計約三百名ナリ

問 財政部ノ認可シタル銀行ナリヤ

答 否、河北省ニ於テ任意ニ設立シタルモノニシテ中央ノ登録ヲ受ケ居ラス

問 決算期、決算ノ方法、決算ノ内容如何

答 決算期ハ六月十二日、決算ハ董事及監事ヲ以テ組織セラルル監理委員會ニテ決定シ之ヲ省政府ニ報告スルノ外一般ニハ發表セス、但シ省民ノ銀行タルニ鑑ミ今後ハ決算内容ヲ公表シタキ所存ナリ尙設立以來ノ決算成績ヲ見ルニ利益ヲ生シタルハ一回ノミ、右ハ省立銀行タル性質上經營方針ニ於テ一般ノ商業銀行ト異ルモノアルニ依ル

問 紙幣發行額及準備内容如何

答 現在發行高數千三百萬元ニシテ内銅子兒票ハ約六萬元

ル改正ヲ加フ

(二)日人顧問ヲ聘セシム

河北省銀行經理楊天受トノ會見

四月二十五日河北省銀行經理楊天受ト會見シ河北省銀行ノ内容其他ニツキ聽取シタル顛末左ノ如シ

問 河北省銀行ノ設立年月及之ト舊直隸省銀行トノ關係
答 本行ハ舊直隸省銀行カ山西派ノ沒落ト共ニ多額ノ負債ヲ殘シタル儘倒壞シタル後ヲ受ケテ民國十九年新設セラレタルモノナルカ直隸省銀行ノ資産負債ハ之ヲ繼承セス、全然別個ノ存在ナリ

問 資本金額及資本ノ構成如何

答 當初資本金ヲ四百萬圓トシ、官商合辦トスル豫定ナリシモ後之ヲ三百萬圓ニ改ム但シ民間株式ノ應募者無ク結局純然タル省立銀行トナレリ、而シテ省政府ノ拂込額ハ貸借對照表上ハ百五十萬圓トナリ居レルモ創立後今日迄ノ間ニ資本ノ受拂頻繁ニシテ其ノ事蹟明瞭ナラス結局現在實際ニ於テ省ノ出資セル額ハ百萬圓未滿ト推定サル

ナリ、之ヲ中國幣制改革當時ト比較スルニ帳簿上ニ於テハ二百萬元餘ノ増加ナルモ實際ハ三百萬元餘ノ増加ヲ示セリ、右ハ幣制改革當時財政部ニ提出シタル報告ニ於テ實際發行高ヨリ百萬元多ク報告セルヲ以テナリ、而シテ増發ノ原因ハ幣制改革後河北省内ニ於テ紙幣ノ需要激增シ特ニ一元札ニ於テ其ノ傾向甚シク之ノミニテ百數十萬元ヲ新規發行セルニ依ル、紙幣ノ増發ハ表面上幣制改革ノ趣旨ニ反スルモ本行ハ財政部ニ登録セラレタル正式ノ銀行ニアラスシテ省立ナルカ故ニ河北省ノ命令ニ從ヒテ行動シ來レルモノナリ

次ニ準備内容ハ中國法幣二百萬元、有價證券百萬元、銀行預金三百萬元ニシテ他ハ營業部勅定ニ依リテ發行セルモノナリ

註——營業部確定ノ内容ニ付テハ後日貸借對照表其他ノ資料ニ依リテ調査スル見込ナリ

問 預金ノ高及内容如何

答 現在五百數十萬元ニシテ官廳預金多シ、民間預金ノ多クハ當座預金ニシテ且貸越契約付ノモノナリ、尙預金利率ハ定期八年九分見當、當座ハ月利三厘乃至四厘ナ

問 貸付金ノ内容如何

答 現在額約九百萬元ニシテ昨年ニ比シ稍増加セリ、官廳ニ對スル貸付ハ省政府ニ對シ百二十萬元アリ、右ハ商震時代貸付ケタルモノニシテ固定シ居レルモ本年七月ヨリ十三ヶ月ニ亘リテ毎月十萬元(内一ヶ月分ハ利息)ノ月賦償還ヲ受クルコトニ決定セリ、其ノ他鹽務稽核所及市財政局ニ若干ノ貸付金アルモ何レモ短期ノモノニシテ且回収ニ懸念ナシ

民間貸付金ノ貸付ハ都市ニ多ク而モ大商人ニ對スルモノ多キ現狀ナルモ本行ノ使命ニ鑑ミ今後ハ中小商人ニ對シテモ業務ヲ開拓スル方針ナリ、又農村ニ對シテモ種子、肥料資金ノ貸付ヲ擴張スル見込ニテ目下規定ヲ制定中ナリ

貸付利率ハ最高月歩一步ヨリ最低八厘ノ間ナリ、貸付金ノ回收成績ハ概ネ良好ナリ

貸付金ノ内容概ネ良好ナルニ不拘從來利益ノ擧ラサリシハ元發行權ヲ有セサリシ爲ト、最近支店開設等ノ爲經費嵩ミタルト、貸付利率カ一般銀行ニ比シテ稍々低

判 決

一、速カニ河北省銀行ノ内容ヲ調査スルト共ニ其行務ヲ指導シ同行ノ冀察政權機關銀行タル地位ヲ確立鞏化シ以テ財政ノ統督竝ニ産業金融ニ便ナラシメ同行ノ信用及資力ノ増大ヲ圖リ以テ自主幣制ノ施行ヲ準備シ機ヲ見テ全面的改革ヲ斷行セシムルヲ要ス

二、自主幣制施行ヲ圓滑ナラシムル爲成シ得レハ新銀行ヲ設立セス河北省銀行ヲ我方針ニ合致スル如ク改組シテ金融中樞機關タラシムル如ク指導スルヲ適策トス

處置要綱

一、速カニ河北省銀行(天津及北京)ノ内容調査ヲ經濟顧問(所要ノ日本人ヲ附ス)ニ委託實施セシム

二、右調査ヲ應諾スルト否トニ不拘河北省銀行ニ日本人顧問ヲ招聘セシメ主トシテ左記諸件ノ調査及指導ヲ行フ

1 資産、營業狀態ノ全般ニ亘ル實情調査

2 中央銀行ニ改組スル爲ノ調査研究

3 河北省銀行紙幣ヲ以テ中國法貨ヲ回收シ逐次之ヲ正貨ニ替フルコト及其他ノ銀行ヲシテ河北省銀行紙幣ヲ領用セシメ可及的同行紙幣ノ流通ノ増進ヲ圖ルコト、但

率ナリシ等ニ基クモノナリ

問 他銀行ニ對シテ爲替取引ヲ有スルヤ

答 省外ニ店舗ヲ有セサル爲省外トノ爲替事務ヲ行フ爲上海商業貯蓄銀行ト「コルレス」ヲ有スルノ外他行ト「コルレス」ナシ

尙右「コルレス」ハ貸借ノ限度利率其他ノ條件ニ於テ全然平等ナリ

(付記一)

天參調第四五號

昭和十一年五月九日
支那駐屯軍司令部

冀察金融情勢判斷(第二次)

次 長 四

次 官 三

關 東 軍 三

上 海 武 官 二

北 平 武 官 一

(以下配布先省略)

冀察金融情勢判斷(第二次)

シ發行準備ノ確保ヲ期ス

三、冀察政權竝ニ冀察省市ニ於ケル官公金ノ收支ハ河北省銀行ニ集中統一セシム

四、中國補助貨幣條例ト同種同品位ノ硬貨ヲ鑄造シ小額紙幣ノ回收ヲ圖ラシム

五、日本側銀行及錢舖ヲシテ河北省銀行紙幣ノ流通ヲ支援セシム

六、日本側銀行手持銀ハ機ヲ見テ河北省銀行ニ引渡サシム

理 由

一、昭和十一年一月二十三日策案セル冀察金融情勢判斷ノ處理ハ政治情勢ノ關係上大部分未タ實現ヲ見ルニ至ラサリシカ爾後冀察政權ハ事實上河北省銀行ヲ機關銀行トシテ利用シアリ

中國幣制改革後地方銀行ハ概ネ準備銀ヲ中央系銀行ニ移シ以テ自行既存紙幣ノ回收ヲ中央系銀行ニ委ネタル狀況ナルニ河北省銀行ハ數百萬元ノ紙幣ヲ増發シ現在發行高一千五百萬元ニ上リ最近ハ中國法貨ノ回收ヲモ行ヒ、尙他行ヨリ同行紙幣領用ノ申込ヲ受ケアル狀況ニ在リ

右發行額ニ對スル準備金ノ内譯ハ現金ト看做スヘキモノ百七十萬元、預金約五百七十萬元ニシテ準備率ハ中國發行制度ニ依リアラサルモ將來中國法貨ノ回收其他ニ依リ準備率ヲ増強スルコトハ可能ナルヘシ

ロ、右ハ自主幣制ノ施行カ急速ニ實現困難ナル現況ニ於ケル過渡的辦法トシテ我方ノ企圖セル所ナルモ同行カ依然軍閥政權ノ機關銀行ニシテ其經營運用ニ付不明ナル點多ク信ヲ置キ難キ現況ニ放任スルコトヲ得ス

ハ、然レハ一面同行ノ企圖セル所ヲ支援スルト共ニ他面之ヲ指揮是止シ以テ財政金融ノ堅實化ヲ圖リ旁々近キ將來ニ豫期スル幣制改革ヲ容易ナラシムルヲ要ス、稅關接收等ニ依リ收支ノ膨脹ヲ豫想スル場合特ニ然リトス之カ爲先ツ同行調書ヲ急務トシ且顧問ヲ入レテ諸般ノ調査及指導ヲ行ハシムルコトハ必須要件ナリ

ニ、幣制改革ニ當リ新銀行ヲ設立スルハ理想トスル所ナルモ冀察政權ハ從來河北省銀行トノ關係上竝ニ新銀行設立可能性ノ薄弱ヲ懸念シ銀行新設ニハ積極的ナラス、寧口唯一ノ北支系銀行ニシテ而モ省立銀行タル河北省銀行中心主義ヲ以テ進ムコトヲ希望シアリ、而シテ新

第二〇七號

冀察政委會ハ二十三日紙幣統制ニ關シ經濟委員會宛左記ノ通り訓令ヲ發セル旨大公報(二十四日)ハ報シ居レリ

紙幣發行ハ規則ニ依リ統一セサルヘカラサル處支那ノ現狀ハ未タ統制ヲ行ハサルニ依リ錯雜スルコト甚シ法幣遂行以來各種紙幣ハ俄ニ増發ヲ行ヘルモ是等發行銀行等ノ準備金カ充實シ居レリヤ否ヤ將又發行額カ超過シ居レリヤ否ヤハ敢テ深く信ヲ置クモノニアラス此ノ儘ニテ缺款加ハラハ券價慘落シ人民ノ生活ニ影響スヘシ冀察政務ヲ總監スル本會トシテハ管内ニ於テ一ノ完全ナル辦法ヲ準備スルノ要アルニ依リ今般特ニ河北省銀行ヲ本會統治ノ紙幣發行統一機關トシテ指定シ右以外何人、何處、何省市政府ト雖更ニ新紙幣ノ發行ヲ許サス具体條項ヲ如何ニ規定スルヤ又環境ト如何ニ調和スルカ宜敷キヤハ經濟委員會ニ於テ詳細ナル計畫ヲ樹ツヘシ經濟委員會ハ本訓令ヲ遵奉シ議復スヘシ云々

本訓令ノ實否真相等ハ追報ス

支、北平、南京、濟南、青島ニ轉電セリ

銀行設立ノ爲メニハ資本ノ募集、新紙幣ノ發行、店舗行員等ノ整備容易ナラスシテ著シク實現ヲ遷延スルコトナルヘキカ故ニ河北省銀行ノ内容ニシテ左迄亂脈ナラストセハ之ヲ盛り立テテ逐次信用ヲ高メ機ヲ見テ同行ヲ合理的ニ改組スルト共ニ全面的發券統一ヲ敢行スルヲ適策トスヘシ

但シ之カ採否ハ更ニ調査研究ノ上決定スルヲ要ス

ホ、補助貨ノ鑄造ハ現ニ冀察政權ノ考慮シアル所ニシテ上海硬貨ノ流通ヲ拒否セル状態ナルヲ以テ速カニ之ヲ鑄造セシメ中央系其他ノ小額紙幣ヲ回收シ補助貨ノ統一ヲ圖ルコトハ幣制獨立ノ魁トシテ決行セシムヘキ所ナリ

738

昭和11年5月25日

在天津岸總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会が河北省銀行を管内における紙幣發行の統一機關と指定する旨発表について

天津 5月25日夜発
本省 5月25日夜着

739

昭和11年5月26日

在天津岸總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

冀察政務委員会による紙幣發行權統制令發出の経緯に關する蕭振瀛内話について

付記 昭和十一年五月二十五日付移牒、在中國喜多

大使館付武官より西尾參謀次長宛電報
華北金融問題に關する王克敏内話について

天津 発
本省 5月26日夜着

第二〇九號

往電第二〇七號ニ關シ

二十五日蕭市長ノ永井ニ語ル所左ノ通

冀察今次ノ發券統制令ハ例ノ軍側要求ニ基キ自分達ノ考案セル措置ノ一ナリトハ雖過般當地大陸銀行カ蔣介石ノ農業銀行券ヲ領用(發行權ナキ銀行カ發行權アル銀行ヘ擔保ヲ提供シ後者ノ紙幣ノ貸與ヲ受クル制度ニシテ之ニ依リ發行銀行ハ從來其ノ發行券ノ増大ヲ計リ居タリ)セントシ自分ヨリ之ヲ差止メタルコトアリ又中央銀行券ハ現在供給力ナク殆ト硬貨準備ナキ關係上流通額大ナラサレトモ之ヲ放任

シ置クハ考物ナルヲ以テ外幣(冀察外ノ紙幣)ノ侵入ヲ防止スルノ必要ヲ認メタル一方今ハ手ヲ着ケ難キモ中國交通券ノ發行モ大体需要ヲ滿タス程度ニ落着ケハ是レ亦統制ヲ加フルノ要アルニ付其ノ時ノ用意ノ爲ニ本令ヲ出シタル次第ナリ尙自分ハ河北省銀行ノ内部ノ改善ヲ計リ其ノ發券ノ基礎ヲ鞏固ニシ(此ノ方法ハ今打明ケ難シト言ヘリ)其ノ發行券ヲ以テ中國交通券ヲ吸收シ之ニ依リ中國交通ニ對シ硬貨若ハ爲替ノ引渡ヲ求ムル所存ナリ

支、北平、南京、青島、濟南へ轉電セリ

(付記)

上海 發

參謀本部 着

二十二日王克敏トノ會見ノ際彼ノ語リシ北支經濟ノ要旨左ノ如シ

南京政府ノ冀察金融獨立ニ對スル施策ハ在北支民間保有銀ヲ郵政、鐵道等ノ諸機關ヲ通シ收拾ノ上熾シニ漢口方面ニ搬出シ北支民衆ノ豫金六億餘元ヲ始メ各銀行、資産等ヲモ漸次南方ニ蒐メ北支流通ノ紙幣(中央、交通、中國)ヲ通シ

きなどに関する米國紙報道振りについて

ニューヨーク 發

本省 5月26日後着

特情 紐育第五二號

二十四日紐育「タイムズ」紙ハ「國策遂行ノ新手段」ト題シ左ノ論說ヲ掲ケタ

最近英米兩國カ日本ニ對シテ爲シタ抗議ニ依ツテ見ルト北支ニ於ケル日本ノ密輸入ハ國策遂行ノ新手段トシテ認メラレタモノノ様タ北支モ支那政府ノ統制下ニアルト云フ擬体ヲ破ツテ英米兩國政府ハ各日本政府ニ對シ極東ニ於ケル國際紛糾ヲ此ノ上惡化セントスル日本ノ政策ヲ中止スヘキ旨勸告シタ北支ノ事實上ノ統御者タル日本軍隊ノ默認ノ下ニ日本商品ノ大規模ナ密輸入カ行ハレテ居ルコトハ數週間以前カラ明カナ公然ノ事實テアツテ此ノ不正貿易ハ既ニ英米兩國ノ對支貿易ニ惡影響ヲ及ホシ又支那ノ全稅關制度ヲ破壞セント脅威シテ居ル更ニ此ノ密輸入ノ結果中央政府ノ收入ハ減少シ海關稅ヲ擔保トスル外債ニ對スル支那政府ノ支拂能力ヲ危殆ニ陥レントシテ居ル

更ニ最恐ルヘキハ日本軍部カ河北、察哈爾兩省ノ稅關行政

約二億元)ニハ他省ト區分シテ特ニ證明ヲ捺印シ以テ萬一ノ場合其破棄ニ備ヘアリ又最近ノ幣制補強工作ハ發行紙幣準備ノ大部三分ノ二ヲ在外正貨トシテ外國ニ置ク爲之カ處分ハ完全ニ南京政府ノ掌握下ニ歸シ其處置如何ハ北支流通紙幣ヲ全ク故紙同然タラシメ得ル實情ニアリ

而シテ斯カル關係ハ日時ノ經過ト共ニ漸次強化サルヘキヲ以テ北支幣制處理ハ一日ノ猶豫ヲモ許ササルモノアリ然レトモ其ノ實行ニ方リテハ同地方ト中支トノ經濟依存關係極メテ濃密ナルモノアルニ鑑ミ最後ノ切札トシテハ金融獨立ノ腹ヲ決メツモ一應平和的の外交的手段ニ依リ漸進的ニ行フヲ要シ特ニ在外正貨ニ對スル北支引當テ相當額ニ對シ北支政權ノ自由處分權ヲ把持スル如クシ置クノ要アルヘシ尙北支銀行公會ト宋哲元トノ關係不良ナルハ北支金融確立上ノ障礙タルヘシ

740 昭和11年5月26日

在ニューヨーク井上(益太郎)総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

河北・察哈爾兩省における稅關行政獨立の動

獨立ノ承認ヲ強要セントスルコトテ若シ蔣介石カ右要求ニ屈服スレハ事實上是等兩省ノ喪失ヲ承認シタコトトナリ南京政府ノ面目ハ地ニ墜チヤウ北支駐屯軍ヲ急激ニ増員スルト云フ様ナ攻撃的態度ヲ日本軍部カ之レ以上續ケルナラ或ハ大紛争カ起ルカモ知レナイ過去數箇月蔣介石トシテハ日本ノ進撃ニ對シ默認政策ヲ續ケルコトカヨリ一層困難トナツテ來テ居ルカ學生其ノ他ノ反日「デモ」ヲ嚴壓シタ爲彼ニ對スル人心ノ支持ハ減退シ反對ニ共產黨ノ勢力カ増大シツツアツタ時丁度英米カ日本ノ密輸入ニ對シ抗議ヲ發シタノニ勇氣ヲ得テ蔣介石ハ珍ラシク激烈ナ言葉テ以テ日本ノ支那關稅行政干渉ニ對シ抗議ヲ發シタコトニ依レハ彼ハ實カヲ以テ反抗スルカモ知レヌ先般有田新外相ハ議會演說中ニ於テ「日支關係ヲ調整シ以テ啻ニ日支兩國ノミナラス東亞全體ノ平和ニ貢獻セントス」ト述ヘタカ歐洲ニ於ケル日本ノ多數ノ友好國ニトツテハ武力強壓ニ加フルニ經濟的壓迫ヲ以テスル日本現在ノ政策カ如何ニシテ支那又ハ其ノ他ノ國家ノ平和ニ寄與スルノカ了解ニ苦シム所テアル

741 昭和11年5月27日 有田外務大臣より
在天津岸総領事代理宛(電報)

河北省銀行を通じて外国銀行所有銀の兌換措置に異存なき旨回訓

付記 昭和十一年六月十九日付、東亜局第一課作成

「北支金融及經濟統制限度ニ關スル天津軍池田參謀及毛里囑託打合要領」

本省 5月27日發

第九八號

貴電第二〇五號ニ關シ

往電第九三號當方ノ事情(大藏省側ニ於テ上海本邦銀行所有銀ト天津外國銀行所有銀トヲ振替ヘシムルコトヲ一應考慮セル次第ナリ)ニ付テハ委細田尻總領事ニ説明シ置ケルカ當方トシテハ冒頭往電ノ引渡殊ニ之ニ依リ河北省銀行カ強化サルルコトニ對シ當初ヨリ何等反對ナラス又上海在銀トノ振替案ニ付テモ大藏省側ハ之ヲ撤回セル次第ナルニ付誤解ナキ様致度

尙冒頭貴電本件ノ真相ハ當方ニ於テモ大體察知シ居タルモ此ノ種問題ニ付テハ隨時通報相成度(貴方ヨリハ貴電第一

五六號報告アリタルノミ)
支、北平、南京ニ轉電セリ

(付記)

北支金融及經濟統制限度ニ關スル天津軍池田參謀及毛里囑託打合要領

六月十九日

日時 六月十九日午后一時―五時

場所 外務省東亞局長室

出席者 天津軍側 池田參謀、毛里囑託

陸軍省 影佐中佐

參謀本部 長 中佐、吉野小佐(少佐)

海軍省 中村中佐

軍令部 藤原中佐

大藏省 湯本國庫課長、櫛田事務官

外務省 上村東亞一課長、重松事務官、太田事務官、曾瀨事務官、法華津事務官、朝

海書記官、西田總領事

第一、天津軍ノ北支經濟政策(中略)

第二、北支金融問題

池田參謀ヨリ北支金融ニ付テハ最近情勢ノ變化アリタルヲ以テ今後從來ノ行掛リヲ離レテ御相談致シ度キモ先ツ順序トシテ從來ノ工作ノ概要ヲ毛里ヨリ説明セシムヘシト述フ毛里説明ノ概要左ノ通

一、支那幣制改革實施ニ伴ヒ北支ニ於テ先ツ工作セルハ

一、現銀ノ南送ヲ禁止スルコト

二、中央ニ對スル送金ヲ停止スルコト

三、金融機關ニ對スル監督ヲ嚴重ニスルコト

ノ三項ヨリ成ル北支緊急防衛令ノ實施ニアリタル處現實ニ右三項ヲ實行セルハ冀東政權ノミニシテ第一項ヲ實施セルハ冀察及山東ナルカ冀察ノ如キハ政府ノ命令ニ依ラス單ニ銀行側ノ自發的措施ニヨリ實現セルニ過キス次テ北支幣制ノ獨立ヲ計畫シ先ツ現銀ノ接收及民間在銀ノ「プレミアム」付買上ヲ南京側ニ先手ヲ打チ實施セシメント企圖セル處如斯キ銀ヲ中心トスル計畫ハ其ノ後情勢ノ變化ニ依リ修正ヲ要スルニ至レリ即チ米國政府ノ銀買上方針ノ變更竝ニ南京政府ト米國政府トノ銀賣却ニ關

スル交渉ノ成立ノ結果南京政府ハ保有銀ヲ有利ニ賣却シ得ルニ反シ北支政權ハ右ノ如キ利益ニ均霑シ得サルニ致レルヲ以テ北支政權側ニ於テ「プレミアム」付ニテ銀買上ヲ爲サントスルニ到底南京政府ニ對抗シ得ス却テ銀ノ南送ヲ惹起セシムル結果トナリ所期ノ目的ニ添ハサル虞レアルニ至レリ、依テ最近ニ於テハ冀察中央銀行ノ準備ニハ三銀行ノ法幣ヲモ加ヘ即チ支那法幣ニ「リンク」スル貨幣制度トナスコトニ考ヲ更メ右ノ「ライン」ニ依ル漸進的發券統一ヲ畫索中ナルカ毛里私見トシテハ將來南京トノ話合可能ナルニ至ラハ北支中央銀行ト南京側中央銀行トノ間ニ爲營業務ヲ取極ムルモ差支ナク要スルニ日本金圓ニ「リンク」スル爲日本側ニ於テ實質的援助ヲナスモノナラハ格別ナルモ然ラサル限り北支貨幣ハ全然南京幣制ニ追從スルモノタラシムルモ差支ナシト考フ旨述フ

三、次テ毛里ヨリ冀察及冀東ニ於ケル銀行制度ニ關スル現在ノ計畫ヲ説明ス

(イ)冀察中央銀行

北支中央銀行ノ組織ニ付テハ可成ク全部ノ銀行(南京

系三銀行ヲ含ムニ網羅スル組合ヲ組成セシメ度キ意向ナリシカ右ハ實際上差當リ不可能ナルヲ以テ目下ノ處河北省銀行ヲ中心トシテ漸次ニ發券統一ヲ企圖スルニ至レリ依テ目下同銀行ノ内容ヲ充分調査中ナルカ大体差支ナシト認定シ得レハ日本側顧問ノ配置等充分ナル監督ノ下ニ同行ヲ充實シ發券統一ニ着手セムカト考ヘ居レリトテ河北銀行ノ内容就中先般同銀行カ日本系ヲ除ク外國系銀行ヨリ保有銀ノ引渡ヲ受ケタル經緯ヲ說明ス

(ロ)冀東中央銀行

冀東側ニ於テハ北支金融緊急防衛令ヲ全面的ニ實施セル上中央側ノ金融機關ハ全部引上ケタルヲ以テ何等カノ金融機關ヲ必要トスルニ至レリ依テ不取敢庶民金融機關トシテ滿洲國幣五十萬圓ヲ以テ祐民公司ナル質屋ヲ開業セシメタリ、然レトモ質屋ハ之ヲ二十二縣ニ及ホス爲ニハ六百萬圓ノ資金ヲ必要トス他方二千二、三百萬元ノ程度ノ財政收入ヲ有スルヲ以テ國庫事務取扱ノ機關ヲ必要トス依テ冀東金融機關兼中央銀行ヲ必要トスル次第ナルカ目下ノ處冀東金融ニ關シ天津軍案及

殷汝耕案ノ二ツアリ兩者ヲ突合セテ決定ノ筈ナリ、毛里私案ニ依レハ政府收入(鹽稅、鐵道益金、關稅等)

ハ大部分天津票ナルニ鑑ミ之ヲ冀東銀行ノ準備トシ更ニ冀東銀行ヨリ外國銀行ニ預金スルノ形ヲ取り冀東銀行券ヲ發行セントスルモノナリ。而シテ法律ノ表面ニテハ準備率ハ五割乃至六割トスヘキモ實際ニ於テハ殆ト全額準備ニテ發行セシムル積リナリ。一方殷ノ案ニ依レハ初メ小額紙幣ノミ發行スルコトナリ居ルモ毛里ノ意見ニ依レハ右ノ如キ順序ヲ必要トセス、

三、以上ノ天津軍側說明ニ對シテ外務省係官ヨリ中央系三銀行紙幣ヲ準備トスル冀察發券ノ統一ハ軍側當初ノ北支金融獨立ノ案ニ比シ實際的且前進的ナルヲ以テ支障少カルヘシ、一方河北省銀行ヲ中心トスル右ノ如キ發券ノ統一ハ同行内容並ニ同行ニ對スル監督宜シキヲ得ハ新ナル機關ヲ組織スルヨリモ實行容易ナルヘシ、尙河北省銀行ハ過般來四百萬元程度ノ現銀引渡ヲ受ケタルヲ以テ今後更ニ多額ノ現銀ヲ必要トセサルヘシト述フ

四、毛里ト大藏省係官トノ間ニ支那幣制ノ前途ニ關スル質疑應答アリタル後毛里ヨリ北支日本系銀行今後ノ指導振ニ

画に関する情報について

付記一 昭和十一年十月九日付移牒、在北平松室(孝

良)武官より西尾參謀次長宛電報

河北省銀行の紙幣乱発状況について

二 昭和十二年八月四日発在天津堀内総領事より

広田外務大臣宛電報第六八二号

河北省銀行券に対する信用急落について

天津 7月9日後発

本省 7月9日夜着

第二八六號(極秘)

當地聯合商業會議所ヨリ當地外國爲替銀行組合ニ對シ最近河北省銀行ハ多額ノ發券ヲ爲シ居ル模様ナルカ右ハ何等カ限度アルモノナリヤ將又右ハ南京政府ノ規定ニ基クモノナリヤ並ニ外國銀行ハ右ニ「アシユアランス」ヲ與フルモノナリヤトノ照會アリ右ニ對シ九日右組合銀行ハ會議ヲ開キタルカ右照會ハ其ノ意味モハツキリセス又河北省銀行ノ内容ニ付テハ知ル所モ無ク且同行券ハ外國銀行ニテハ取扱額モ少キニ付結局組合トシテハ冷淡ナル態度ヲ執リ本件ニ付テハ事情ヲ承知セストノ意味ノ回答ヲ發スルコトニ決セル

742

昭和11年7月9日

在天津田尻総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

河北省銀行を發券銀行とする華北幣制独立計

六池田參謀ヨリ北支ニ於テ目下各銀行ノ紙幣ニ巨ル贗造紙幣總額約二百萬元ト推定セラルルモノカ融通シ居リ恐ラク露西亞邊リニテ大規模ニ印刷セラレタルモノノ如ク極メテ巧妙ナル出來具合ナリ、依テ河北省銀行等ニ於テ紙幣ヲ發行スル場合ニ於テハ充分注意ヲ拂フノ要アリト思考スル旨ヲ述フ

困難ナルヘシト答フ

關シ毛里ノ意見トシテ既ニ爲替業務ノ妙味ヲ失ヒタル日本側銀行トシテハ今後可成ク長期確實ナル投資ニ轉換セシムルコト適當ナルヘシ尤モ北支中央銀行ノ基礎固マリタル上ハ例ヘハ農村金融ノ如キハ日本側銀行ヨリ北支中央銀行ノ手ニ引キ戻スコト然ル可シトノ意見ヲ述フ

五毛里ヨリ冀東中央銀行ノ日本側銀行ニ對スル預金ニ付大藏省側ノ意向ヲ問ヒタルニ對シ大藏省係官ヨリ當座預金トシテ而モ相當ノ利子ヲ附セシメントスルナラハ可成リ

由(以下極秘)

河北省銀行ニ付テハ蕭振瀛在官當時軍側ニテハ同人ノ意見ニ基キ先ツ同銀行ノ強化ヲ圖リ(之カ爲ニハ嚴重ナル検査ト邦人顧問ノ招聘ヲ要スト軍側ヨリ申入レタリ)

次テ同行券ヲ以テ中、中、交券ヲ回收シ之ヲ以テ是等發行銀行ニ現銀兌換ヲ求メテ之ヲ河北省銀行ノ「レサーブ」ニ當テ此ノ間是等ノ銀行ノ發行權ヲ事實上停止セシメ金融上ヨリ北支幣制獨立ヲ具現セントスル計畫アリ而シテ當時蕭ハ北平印刷局ニテ河北省銀行券ヲ印刷セシメ着々幣制獨立工作ヲ進メ居レル旨内話シ居リタリ

現在市中ニハ新券相當流通シ居リ一般ニ多額ノ増發アリタルモノトノ觀測アル處四月二十日軍側内查ニ係ル同行日計表ニ依レハ發行尻ハ一千九百九十一萬元トナリ居リ冀察政權成立後二、三百萬元位ノ増發ヲ爲シタルヘシト推定サレ居レリ尙聯合商業會議所ノ組合銀行ニ對スル照會ハ前記幣制問題ニ關スル經緯モアリ如何ナル事由ニ基ケルモノナリヤ一應内查ヲ進メ必要アラハ追報スヘシ

(付記一)

ヲ誘發シ延テ時局混亂ヲ更ニ複雑化スルノ惧ヲ生シタルニ依リ本四日午後二時當地銀行公會ハ河北省銀行ノ要請等ナキニ拘ラス緊急秘密會議ヲ召集シ凝議セル處公會銀行ニテハ即時無制限ニ本銀行券ヲ受入ルルコトニ決シ極力本銀行券ノ信用ヲ支持スルコトトナリタル由ニテ公會銀行ニテハ之ニテ危機ヲ脱シ得ヘシト見居レリ

現在河北省銀行ノ發行額ハ右銀行公會ノ席上議ニ上リタル模様ニシテ右ハ大體一億見當ニ上リ居リ右ニ對シ現銀四百萬元、中國銀行預金等法幣手持五百萬元、商品擔保貸付(棉花、石炭、麥粉ヲ主トス)三千五百萬元、合計四千四百萬元即チ大體半額ノ發行準備アルコトハ確實ナル由

河北省銀行ハ平常宋哲元ヲ傘ニ着ル等公會銀行ニテハ兎角ノ評アリシモ宋ノ離平後ハ同銀行經理ハ姿ヲ見セス(館員モ會ヘス)前記公會銀行ノ會議ニモ出席セサリシ由ナリ

尙本銀行券カ短日月ニ斯クノ如ク巨額ノ發行ヲ爲シ得タル事由ハ農村及都市ニ於テ偽造票ノ提示アル場合無條件ニテ自行券ト取換ヲ行ヒ又幣制改革後ト雖錢舖等ニ代理發行ノ特點(錢舖ハ代理發行ノ六割ニ相當スル確實ナル擔保ヲ提供セハ十割ノ河北省銀行券ヲ交付ス)ヲ與フル等ノ「カラ

四 華北問題

北 平 発
參謀本部 着

冀察ノ經濟事情ニ精通スル者ノ言ニ依レハ河北省銀行發行ノ紙幣ハ既ニ準備金(河北省銀行ハ準備金ヲ有セス物件及土地等ノ保證ヲ準備金ト見做シアリ)ヲ超過スルコト二千四百萬元ニ達シ尙續々紙幣ヲ發行セントシアルヲ以テ此儘放置セハ冀察ノ金融ニ危機ヲ與ヘル虞大ナリ

(付記二)

天津 昭和12年8月4日後発
本省 昭和12年8月4日夜着

第六八二號

本官發上海宛電報

第二八號(至急)

貴電第四六號ニ關シ

河北省銀行券ハ宋哲元離平ト同時ニ謠言ヲ生シ錢舖ニテハ内歩ヲ附シテ受入レ一部ノ外資銀行ハ受入ヲ拒否スルニ至レル等憂フヘキ状態ニ陥リタル結果本銀行券ヲ主タル通貨トスル都市下層階級農村ニ於テ取付(即チ法幣交換)ノ風潮

クリ」ヲ用ヒタルニ依ルト言ハル

大臣、支、北平へ轉電セリ

743 昭和11年7月10日

有田外務大臣より
在中國川越大使、在中國武藤大使館ニ
等書記官、在南京須磨總領事他宛

華北關稅處理および密輸問題の対処方針に關
する現地軍關係者を含めた關係各省協議會の
討議結果について

付 記 昭和十一年六月二十二日付

「北支關稅問題ニ關スル諒解事項」

亞一機密合第一二〇一號
昭和十一年七月十日

外務大臣 有田 八郎

在中國特命全權大使 川越 茂殿

在中國大使館一等書記官 武藤 義雄殿

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿

在天津總領事代理 田尻 愛義殿

在青島總領事 西 春彦殿

在濟南總領事代理	橋本 正康殿
在上海總領事代理	杉原 荒太殿
在漢口總領事	三浦 義秋殿
在福州總領事	中村 豐一殿
在廈門領事	山田 芳太郎殿
在廣東總領事	河相 達夫殿
在滿洲國特命全權大使	植田 謙吉殿

北支關稅問題ニ關スル天津軍側トノ打合要領ノ件
 北支關稅問題ニ關スル方針ニ付テハ七月上旬往電ヲ以テ申進ノ次第アル處同電ニ言及セル天津軍參謀トノ打合會ノ議事錄別添送付スルニ付御參照相成度
 追而本件議事錄ハ當方限リノ非公式記錄ナルニ付右様御含ノ上取扱御注意相成度爲念申添フ
 本信及別紙宛先 支、北平、南京、天津、青島、濟南、上海、漢口、福州、廈門、廣東及滿

(別 添)
 北支關稅問題ニ關スル天津軍池田參謀毛里囑託トノ打合會議事要領

稅行政權及立法權ヲ獲得スル必要アリ。然ルニ右ハ華府關稅條約ニ抵觸スルヲ以テ不可ナリ。
 加之ナラス閩錫山時代ト客觀的情勢異リ日本側カ背後ニ在ルコト明カナルヲ以テ若シ之ヲ強行セハ揚子江沿岸ハ素ヨリ全世界ニ排日貨ヲ誘致セシムル危險アリ。更ニ政治的目的(四)ノ爲ニハ成程北支ニ反南京政權ノ存在スルコトハ意義アル次第ナルカ右ハ必スシモ關稅行政權及立法權ノ獨立ヲ必要トセス。
 要之ニ天津軍ニ於テハ北支關稅ヲ合法的ニ接收シ稅率ヲ全支那ニ亘リ引下クルコト適當ト思惟シ居ル次第ナリ。從ツテ先般ノ中央ノ訓令ハ天津軍ノ方針ニ異ナル所ナシ(海關ノ接收ヲ企圖シ居ルモノニ非ス)。
 依ツテ合法的ニ即チ冀察政權ヲシテ南京トノ話合ニ依リ關稅剩餘ノ移讓ヲ實現セシムル問題ナルカ若シ南京側ニ於テ言ヲ左右ニ託シ之ニ同意ヲ肯セサル場合ニ於テハ如何ナル方法アリヤカ問題ナリ此ノ點ニ關シ先般ノ中央ノ指令ハ所謂平和的接收ヲ以テ限度トシ居ル如キモ御指示ノ如ク海關監督ヲ通シ稅務司ヲ操縱シテ關稅剩餘ヲ獲得セントスル如キハ天津軍ニ於テ從來實施ヲ試ミ來レルモ

六月二十二日天津軍池田參謀及毛里囑託ヲ招キ當方東亞局及通商局係官、陸軍省、參謀本部、海軍省、軍令部及大藏省係官會合シ左ノ通り意見交換ヲナセリ。
 一池田參謀ヨリ北支關稅處理ニ關スル天津軍ノ意向ヲ説明ス、即チ天津軍側ニ於テハ北支關稅處理(關稅ノ接收ト言フ字句ハ誤解ヲ招キ易キヲ以テ關稅處理ト言フヘシ)
 二、北支政權財政問題
 (一)關稅定率問題
 (二)關稅行政及立法權ノ問題
 (三)包含スル次第ナルカ之目的ハ左ノ通りナリ
 甲、經濟的目的
 (イ)北支政權ノ財政的基礎確立スルコト
 (ロ)北支民衆ノ福祉ヲ增進スルコト
 乙、政治的目的
 (イ)北支政權ノ形式的自主政ヲ確立スルコト
 (ロ)西南ニ對スル牽制
 然ルニ右經濟的目的達成ノ爲ニハ關稅收入ヲ獲得スレハ足ル次第ナリ、一方政治的目的(イ)ノ爲ニハ結局ニ於テ關稅成功セサル次第ナルヲ以テ右中央ノ指令ハ現地ノ實情ニ則セサル憾アリ。
 前述ノ如ク天津軍ニ於テハ海關ノ強制的接收ヲ企圖シ居ラサル次第ナルカ、軍側トシテハ冀察側ヲシテ南京ト交涉セシメタル上南京側カ満足ヲ與ヘサル場合ニ於テハオホメト引退カル譯ニハユカサルニ付、中央ニ於テモ最惡ノ場合ヲ豫想シテ(恐ラク其處迄ハ行カサルヘキモ)相當ノ決意ヲナスト共ニ天津軍ニ對シテ裁量ノ余地ヲ與ヘラレ度シト述フ。
 二、右ニ對シ陸軍省影佐中佐及外務省係官ヨリ天津軍トシテノ行動範圍ハ過般ノ訓令ヲ逸脫スルヲ得ス、尤モ中央ニ於テハ本件目的達成ノ爲南京ニ對スル諸般ノ工作ヲモ考慮中ナリト述フ。
 三、次テ外務省係官ヨリ冀東政府ノ特殊貿易ハ冀察ニ對スル關稅剩餘移讓ノ實現ト共ニ之ヲ廢止セントスル方針案(別紙甲號)ヲ説明シ陸軍省影佐中佐ハ同案ヲ支持ス。
 四、池田參謀及毛里囑託ハ密輸ノ原因ハ支那稅率ノ高キコトニ存スルニモ拘ラス右原因ヲ除去スルコトナク且既成事實ヲ捨テテ關稅剩餘ノ移讓ヲ實現セントスルハ片手落ニ

シテ不得策ナリトノ意見ヲ述ヘ、毛里囑託ヨリ支那關稅問題ニ關スル別紙乙號ノ如キ意見ヲ敷衍説明ス。

之ニ對シ外務省係官ヨリ關稅引下ケノ點ハ從前同様南京政府ニ對スル外交交渉ニ依リ實現ヲ期スルハ勿論ニシテ何等片落ニ非ス、冀東特殊貿易廢止ヲ南京ニ對スル交渉ノ「バーゲン」ニ用フルコトハ正式ニハ勿論出來サル次第ナルモ、實際問題トシテハ冀察ニ對スル關稅剩餘ノ移讓カ實現セラレタ上ハ日本側ニ於テ自主的ニ冀東ノ特殊貿易ヲ消滅セシムルト言フコトカ確立シテアラハ、南京ニ對スル交渉ヲ容易ナラシムル次第ナルヲ以テ、「バーゲン」トシテノ價值カ大ナル時期ニ於テ有効ニ用ユルコト適當ニシテ、餘マリ既成事實ニ拘泥スルニ於テハ遺憾乍ラ「バーゲン」トシテノ價值モ減スヘシ、已ニ冀東特貿ハ左程盛ナラサル模様ナリト説明ス。

天津軍毛里囑託ハ右ニ對シ冀察ニ對スル關稅剩餘ノ移讓ノミニテ密輸ハ停止セサルヲ以テ結局冀察側ハ右關稅剩餘ノ移讓ヲ受クルコトニ依リテ利益ヲ擧ケス。矢張り關稅引下ヲ必要トスル旨主張シ、右ニ對シ外務省係官ハ冀察カ關稅剩餘ヲ受ケ一方冀東ノ特貿ヲ廢止スレハ關稅引下ヲ爲

外務省係官ヨリ冀東特殊貿易ヲ極力對支交渉ノ道具ニ用ユルコトハ勿論ナルモ、我方ニ於テ之カ存續ヲ支持スルコトハ違法ナルヲ以テ、不取敢冀察ニ對スル關稅剩餘ノ移讓ト共ニ之ヲ廢シ、稅率引下ケノ點ハ之ト切り離シ引續キ實現ニ努力スル事ト致度シ。之ニ反シ若シ冀察ニ對スル剩餘ノ移讓ト稅率引下ケトノ二ツノ條件カ満足セラレサル間ハ冀東ノ特殊貿易ヲ廢止セスト言フコトナラハ、對南京交渉ハ益々困難トナル(純然タル密輸ノ取締ニ對シ協力方ヲ求メ來ルヘシ)結果冀東ノ特貿ハ殆ト永續化スルコトトナリ甚タ面白カラス。尤モ冀察側ヨリ南京ニ對シ稅收ヲ保全スル見地ヨリ稅率ノ引下ヲ建議セシメ、以テ南京ニ於ケル正式外交交渉ヲ援助セシムルコトハ差支ナシト認メラルルモ、冀察トシテハ矢張り關稅剩餘ノ移讓ヲ受クルコトニ主力ヲ置ク建前ヲ必要トス。且日本側トシテハ、一旦冀察ニ對スル關稅剩餘ノ移讓アリタル上ハ、兎ニモ角ニモ冀東ノ特貿ヲ消滅セシメ更ニ引續キ密輸對策ノ見地ヨリシテ日本側及ヒ冀察側ヨリ南京ニ對シ稅率引下ケ方ヲ交渉スルコトト致度ト述ヘタル處天津軍係官ニ於テ之ヲ大体諒承セリ。

サストモ冀察八年三千萬元程度ノ最近半年並ミノ稅收ヲ得ヘシ。勿論更ニ關稅引下及我方ノ積極的密輸取締ヲ實行スレハ冀察側ノ稅收ヲ増スヘキモ右第二段ノ措置ト心得テ可ナルヘキ旨述ヘ、毛里囑託ハ冀東ノ特貿廢止ハ冀察ニ對スル關稅剩餘ト同時ニ實行セス、關稅引下方ニ利用シ度右關稅剩餘ノ移讓ト言フモ實際問題トシテハ內債負擔部分ヲモ取り上クルコトハ相當困難ナルヘク、從ツテ內債負擔部分ノ一部ヲ南京ニ負ケテヤルコトニ依リ關稅引下ノ實行ヲ爲サシムルコトヲ考慮シ見度旨述ヘ

外務省係官ハ內債負擔部分迄取り得ルヤ其處カ交渉ノ問題ナルカ假リニ冀察側カ內債負擔部分ヲ全部取りタル場合ニ於テモ積立等ノ措置ヲ考慮スルコト可然旨述フ。

天津軍側ハ結局冀東特殊貿易ノ廢止ニ付テハ大体諒解セルモ、冀察ニ對スル關稅剩餘ノ移讓ト共ニ直ニ之ヲ廢止スルコトニ付テハ明確ナル同意ヲ留保シ、且冀察側ノ南京ニ對スル北支關稅ノ處理交渉ニ於テハ單ニ關稅剩餘ノ移讓ヲ要求セシムルノミナラス、併セテ密輸取締ノ見地ヨリシテ主トシテ典型的密輸品ニ對シ相當ノ關稅引下方ヲモ建議セシメ度旨ノ主張ヲ枉ケサリシヲ以テ、

七、次テ池田參謀ヨリ冀察側ノ南京ニ對スル關稅引下建議案ノ内容ニ關シ説明シ意見交換ノ結果、典型的密輸品ニ重點ヲ置ク稅率引下ケヲ内容トシ、必シモ日本品關係ノ全面的稅率引下ケノ要求ノ形トセサルコト可然シトノ意見一致ヲ見タリ、尙天津軍側ノ要求ニ依リ南京政府ニ對スル我方ノ稅率引下ケ案(第一次案)ヲ通報シ置ケリ。天津軍側ニ於テハ具體案作成ノ上更メテ時局委員會ニ對シ提案スルコトニ打合せタリ。

八、平和的接收ノ意義ニ關シ池田參謀ヨリ更ニ細目ニ付中央側ノ諒解ヲ取付度シトノ意見ヲ述ヘタルモ、右ニ對シテハ參謀本部川本少佐ヨリ中央トシテハ先般ノ指令以上ノ細目ヲ此ノ際定ムルコトヲ得ス。尤モ平和的接收ノ意義ハ相當解釋ノ餘地アリト認メラルルヲ以テ天津側ニ於テ立案善處スルコト可然シトノ意見ヲ述ヘ、池田參謀ヨリ前述ノ如ク冀察側ヨリ南京側ニ關稅剩餘ノ移讓及ヒ稅率引下ケ方ヲ交渉セシムルニ當リ冀察政委會内部ニ關稅處理委員會ノ如キモノヲ作り關稅問題ヲ研究セシメルニ於テハ南京側ハ右ヲ以テ冀察側カ關稅接收ヲ日論ミ居ルヤニ解釋シ壓迫ヲ感スヘシト思ハルル處右ハ差支

ヘナカルヘキヤト問ヒタルニ付、

外務省係官ヨリ右ノ如キ方法ニ依リ關稅接收ノ氣勢ヲ示ス位ハ差支ナシト認ムル旨ヲ答ヘタリ

六、尙毛里囑託ヨリ外務側カ南京ニ對シ交渉セララル場合ニ於テ冀東ノ特質廢止ヲ進ムテ條件トシテ提示スルコトハ絶体避ケラレ度旨並冀察カ關稅ヲ合法的ニ接收スルニ際シ又ハ接收後中南支ニ於テ日貨排斥力起ル場合ニ於テ外務省側ヨリ北支關稅剩餘接收ヲ中止シ又ハ再考シ度等ノ文句ヲ言ハレサル様致度旨述ヘタルヲ以テ、外務省係官ヨリ右前者ニ付テハ御懸念ヲ及バス、後者ニ付テハ打合ノ結果ニ基ク合法的の接收ナラハ其ノ結果ニ付テハ素ヨリ外務側カ責任ヲ回避シ又ハ弱腰トナルコトナシ、但シ物ニハ程度ト順序トアリ北支關稅處理ハ全般的國際關係ノ惡化及激烈ナル排日貨ノ起生ヲ覺悟シテ迄早急ニ實行ヲ要スル程ノ緊要ナル國策ニハ非サルコトニ留意アリ度旨答フ。

七、最後ニ上村東亞局第一課長ヨリ本日打合ノ結果ハ敦^(英)レ各上局ニ經伺ノ上正式決定致シ度旨ヲ述ヘ散會ス

及海關維持費ヲ除キタル剩餘ヲ冀察政權ニ移讓シタル上ハ直チニ冀東政府ノ特殊關稅ヲ撤廢セシムルモノトス
(冀察政權ノ收得分ニ對スル冀察、冀東兩政權間ノ分前ハ別ニ決定ス)

四、右冀察政權ニ對スル關稅ノ移讓ニ付テハ一面冀察政權ニ對スル我方工作ニ依リ同政權ヲシテ南京政府ニ對シ要求セシムルト共ニ他面我方ヨリ直接南京政府ニ對シ要求スルモノトス

五、右冀察側ニ對スル工作ハ天津軍側ノ宋哲元ニ對スル過般ノ要求ニ依リ實效ヲ期スルモノトス
南京政府ニ對スル直接ノ工作ハ川越大使着任ノ後右冀察側ノ南京トノ交渉ト併行シテ之ヲ實施ス

六、冀察政權カ關稅ノ移讓ヲ受ケタル上ハ我方ノ充分ナル監督ノ下ニ之カ濫費ヲ阻止スルト共ニ之カ相當部分ハ諸般ノ經濟開發ノ充當セシムルモノトス

乙號

昭一一、六、一八

支那關稅定率ニ對スル基本的問題(天津軍毛里

甲號

冀東特殊貿易及北支政權財政問題處理方針案

十一、六、九、 亞一

本件處理方針案ハ今般赴任ノ川越大使ニ對スル訓令案トシテ起草セルモノナリ

一、冀東政府ノ特殊關稅制度ハ之カ我カ對支通商、日本ト列國トノ關係及支那政治經濟ニ與フル影響ニ關スル議論ハ暫ク措キ、支那關稅均一ノ原則ヲ侵反スルモノニシテ我方カ之ヲ支持スルコトハ華府關稅條約第六條ニ違反スル次第ナルヲ以テ速カニ之ヲ撤廢セシムルヲ要ス(先般軍側ヨリ冀察政權ニ對シ關稅ノ合法的の接收ヲ要求セル際ニ於テモ中央ヨリ出先ニ對シ特殊關稅率及地帶ノ設定ハ之ヲ避クルモノナルコトヲ明確ニシ置ケル次第アリ)

二、然レトモ實際問題トシテハ南京政府カ關稅收入ヲ獨占シ華北地方經濟ノ開發ニ對シ何等貢獻スル所ナキ結果トシテ冀東政府側カ此ノ種自給自足ノ策ニ出テタルコト並冀ニ南京側カ冀察政權ニ對シテ約定セル關稅月額百萬元ノ交付ヲ怠リ來レルコトヲモ考慮ニ容ルルヲ要ス

三、仍テ南京政府ニ於テ河北省關稅收入ノ中、外債負擔部分

囑託意見)

一、支那現行關稅定率ハ一九三一—三二年ノ滿洲事變及上海事變ニ伴フ排日貨ヲ定率ノ上ニ合法化シ之ヲ永續化シタルモノニシテ從ツテ現行定率ヲ中心トシテ日支經濟關係ハ絕對ニ兩立セサルコト

二、支那關稅定率ノ限度ハ

- (1) 支那ノ海岸線ノ長キコト
- (2) 海岸線ニ反比例シテ開港場ノ少キコト
- (3) 政治機構ノ薄弱ナルコト
- (4) 官吏能率ノ低キコト

ノ特殊性ニ基キ支那關稅定率ノ限度ハ列國ニ比シテ低度ナラサル限り密輸入ノ存在ハ必然的ナルコト

三、日本ノ對支輸出品ハ主トシテ大衆ノ直接消費品ナルニ反シ英米ハ對支資本投資ニ伴フ重工業品其他資本的貨物ノ輸出品ヲ確保スルニ依リ高率關稅ノ影響ニ對シテ比較的鈍感ナリ此點ニ關シ日本ハ高率關稅ノ低下ヲ期スルト共ニ鐵道其他ノ資本投資ニ依リ支那市場進出ヲ圖ラサル限リ重工業品ニ於テ英米ニ對抗スルコトヲ得サルヘク又日本重工業ノ發展ヲ完成シ得ス

(付記)

北支關稅問題ニ關スル諒解事項

十一、六、二十二

- 一、冀東政府ノ特殊關稅制度ハ之カ我カ對支通商、日本ト列國トノ關係及支那政治經濟ニ與フル影響ニ關スル議論ハ暫ク措キ支那關稅均一ノ原則ヲ違反スルモノニシテ我方カ之ヲ支持スルコトハ華府關稅條約第六條ニ違反スル次第ナルヲ以テ速カニ之ヲ撤廢セシムルヲ要ス(先般軍側ヨリ冀察政權ニ對シ關稅ノ合法的接收ヲ要求セル際ニ於テモ中央ヨリ出先ニ對シ特殊關稅率及地帶ノ設定ハ之ヲ避クルモノナルコトヲ明確ニシ置ケル次第アリ)
- 二、然レトモ實際問題トシテハ南京政府カ關稅收入ヲ獨占シ華北地方經濟ノ開發ニ對シ何等貢獻スル所ナキ結果トシテ冀東政府側カ此ノ種自給自足ノ策ニ出テタルコト竝曩ニ南京側カ冀察政權ニ對シテ約定セル關稅月額百萬元ノ交付ヲ怠リ來レルコトヲモ考慮ニ容ルルヲ要ス
- 三、仍テ南京政府ニ於テ河北省關稅收入ノ中外債負擔部分及海關維持費ヲ除キタル剩餘ヲ冀察政權ニ移讓セル上ハ直

於ケル外交交渉ヲ援助セシムルモノトス

別紙第一號

北支海關接收ニ關スル方針

- 一、關稅ノ合法的接收トハ冀察及南京政權ノ話合ニ依リ河北省關稅收入(外債負擔部分及海關維持費ハ之ヲ控除ス)ヲ冀察政權ニ於テ取得スルコトヲ言フ
- 二、南京側カ飽ク迄右合法的の接收ヲ拒否スル場合ニ於テハ窮局ノ措置トシテ海關ノ平和的の接收ヲ圖ルモノトス
平和的の接收トハ稅務司ヲ實際上海關監督ノ監督下ニ置キ冀察政權ハ海關監督ヲ通シ海關行政ノ實質ヲ掌握シ以テ前記一、ノ關稅收入ヲ取得スルコトヲ言フ
- 三、右一、及二、ノ接收ヲ通シ如何ナル場合ニ於テモ(イ)海關ノ實力接收(ロ)海關人事ニ對スル實力干涉(ハ)海關組織ノ分離又ハ統一破壊(ニ)特殊關稅制度及地帶ノ設定(ホ)外債負擔部分ノ抑留積立(中央ニ對スル送金ノ禁止)等ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

別紙第二號

ニ冀東政府ノ特殊關稅ヲ撤廢セシムルモノトス(冀察政權ノ收得分ニ對スル冀察冀東兩政權間ノ分前ハ別ニ決定ス)

- 四、右冀察政權ニ對スル關稅ノ移讓ニ付テハ冀察政權ニ對スル我方ノ工作ニ依リ冀察側ヨシテ合法的ニ接收セシムルヲ旨トシ止ムヲ得サレハ平和的の接收(別紙一、過般中央ノ訓電參照)ニ依リ實現ヲ期ス、尤モ川越大使ヲシテ右現地ニ於ケル工作ト併行シテ南京政府ニ對シ同様ノ申入ヲ爲サシメ以テ我方ノ目的達成ニ資セシム
- 五、冀察政權カ關稅ノ移讓ヲ受ケタル上ハ我方ノ充分ナル監督ノ下ニ之カ濫費ヲ阻止スルト共ニ之カ相當部分ハ諸般ノ經濟開發ニ充當セシムルモノトス
- 六、支那關稅引下方ニ付テハ從前同様南京政府ニ對スル正式外交交渉ニ依リ貫徹ヲ期スルハ勿論ナリトス、尤モ前記四、我方ノ冀察政權ニ對スル工作ニ依リ冀察側ヨシテ南京側ニ對シ關稅ノ移讓ヲ要求セシムルト共ニ密輸取締ノ見地ヨリ主トシテ典型的の密輸品ニ關シ關稅引下方(別紙三、建議案參照)ヲ建議セシメ(冀察政權内部ニ關稅問題對策委員會ノ如キモノヲ設立セシムルモノ可ナリ)以テ南京ニ

冀察政權ノ南京政府ニ對スル關稅引下方建議案要領

左記建議案ハ冀察側ヨリ南京側ニ對シ關稅剩餘移讓方要求ト同時ニ提出セシムルモ冀察側トシテハ關稅剩餘移讓方要求ニ主力ヲ置クノ建前トスルヲ要ス

記

- (一)一九三一年以降二割以上ノ稅率引上ヲ見タル品目ニ付テハ二割ノ低減
- (二)砂糖、人絹絲、毛織物、絹織物、洋紙、海產物ニ付テハ一九三一年國定稅率迄引下

744 昭和11年8月1日

在中國川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

華北における中央銀行設立計画に関する報道
について

上海 8月1日後発
本省 8月1日夜着

第六〇七號

本使發天津宛電報

第三〇號

貴地卅一日發U、Pハ冀察政務委員會ノ手ニ依リ日本財政顧問ノ援助ヲ得北支中央銀行設立計畫成リツツアルカ右計畫ニ依レハ北支諸銀行ノ所有銀ハ新銀行ニ回收セラレ之ニ對シ新銀行ノ紙幣發行セラルヘク又朝鮮銀行ハ新銀行ノ姉妹銀行トナリ前者ノ預金ハ後者ノ紙幣發行準備金ニ流用セラルル筈ニテ王克敏總經理ニ擬セラレ居ル由ナリ新銀行行設立カ何等カノ理由ニ依リ失敗ニ終ルカ如キ場合ニハ天津ニ特殊ノ日本銀行設立セラレ北支ニ對スル日本ノ經濟發展ヲ便ナラシムル由報シ居レリ

745 昭和11年8月4日 在天津田尻総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

華北における中央銀行設立計画は冀東銀行設立計画の誤聞と思われる旨報告

天津 8月4日後発
本省 8月4日夜着

第三三七號(極秘)

支發本官宛電報第三〇號ニ關シ

際特ニ遺憾ナル事實ト思ハルルカ之ニ對スル貴見如何又若シ支那政府ヨリノ正式抗議ニ接セラレタルトキハ如何ニ措置セララル御考ナリヤト質問アリタルニ付本官ハ右ハ金融界ノコトニシテ其ノ事情充分ニハ承知セサルモ鮮銀ハ引受ヲ保證セルモノニアラス單ニ純然タル銀行業務トシテ冀東銀行發行送金爲替ノ支拂ニ應シ之トテモ其ノ預金ノ範圍内ニ止マリ居レルモノカト想像セラル又發行銀行ニ充分ナル

現在北支中央銀行設立計畫全然ナシ或ハ目下計畫中ノ冀東銀行ノ件カ誤リ傳ヘラレタルモノカトモ察セラル(冀東銀行條例案郵送ス)尙右冀東銀行ハ地方金融緩和及政府公金取扱ノ目的ヲ以テ一地方銀行トシテ設立方軍ニテ指導中ニ係ルモノニシテ中央の性質ヲ帶ヒタルモノニアラサルニ付爲念

746 昭和12年3月16日 在中国加藤大使館一等書記官より
佐藤外務大臣宛(電報)

冀東銀行紙幣發行に對する朝鮮銀行の兌換引受け保証に關する中国側記者団との応答振り報告

北平 3月16日後発
本省 3月16日夜着

第一一號

十六日支那記者團定例会見ノ際冀東銀行紙幣發行ニ對シ朝鮮銀行カ兌換引受ヲ保證セルハ右紙幣ノ流通ニ對スル實質的援助ナルカ右ハ支那政府ノ幣制統一ヲ阻害スル結果トナリ折角佐藤外相ノ就任ニ依リ日支關係ノ好轉期待セラルル

兌換準備金ヲ有シ紙幣價值ヲ維持スルニ於テハ紙幣ノ發行ハ金融界ニ何等不安ヲ與ヘサルノミナラス却テ其ノ齎ス利益モアルヘシ右ノ次第ナレハ支那政府ヨリ何等抗議ヲ受クヘキ筋合ノモノニアラスト思考ストノ趣旨ニテ然ルヘク應酬シ置ケリ御參考迄

支、上海大使、滿、天津へ轉電セリ
支ヨリ南京へ、上海大使ヨリ上海へ轉報アリタシ